資料４

# 令和９年度 地域間幹線系統確保維持地域計画（案）の策定について

## １ 概要

胆振地域は、室蘭市及び苫小牧市が地域の中核として都市機能を果たしていることから、周辺地域の住民にとって必要不可欠なバス路線として、これらの中心都市と周辺地域とを結ぶ広域的・幹線的なバス路線である地域間幹線系統を、国と道の補助も活用しながら維持するため、地域間幹線系統の計画を策定し、北海道生活交通確保対策協議会（全道協議会）に提出するもの。

## ２ 昨年度計画からの変更点

豊浦町内のバス再編により、令和８年 10 月から、しおさい前～JR 洞爺駅前を結ぶ豊浦町営バスの運行が開始されることを受け、町と交通事業者において協議を行った結果、洞爺湖温泉線における「しおさい前～JR 洞爺駅前」区間の路線を廃止することとなった。

## ３ 対象系統 全１４系統

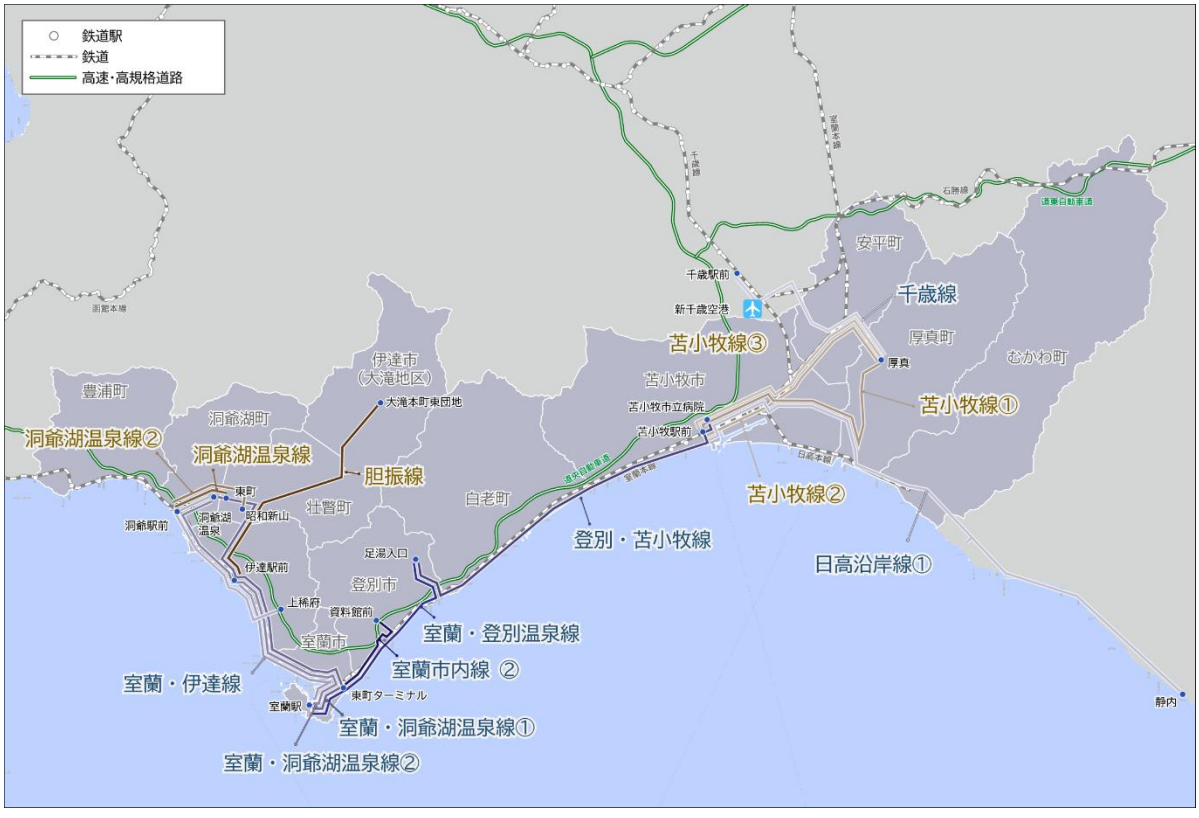
（１）道南バス株式会社 １０系統

室蘭・洞爺湖線①・②、室蘭・伊達線、胆振線、洞爺湖温泉線①・②、室蘭市内線①、登別・苫小牧線、室蘭・登別温泉線、日高沿岸線①

（２）あつまバス株式会社 ４系統

苫小牧線①・②・③、千歳線

※前年度計画から、対象系統に変更なし。



# 地域間幹線系統確保維持地域計画書（案）

○　「地域間幹線系統の確保維持に関する基本方針」　P1～2

○　地域間幹線系統確保維持地域計画

表１　確保・維持する地域間幹線系統の概要　P3～5

表４　地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱　P6

別表１及び別表３の補助事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧

○　令和７年度地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画報告表（振り返り）　〔別紙様式１－１〕　P7～20

令和９年度地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画報告表（策定）　〔別紙様式１－１〕　P21～34

○　別　紙　「生産性向上の取組」　P35～37

# 「地域間幹線系統の確保維持に関する基本方針」

北海道胆振地域公共交通活性化協議会

## 1　地域における地域間幹線系統の現状

### (1) 地域の状況

- 胆振管内は、北海道の中南部に位置し、総面積は約 3,697 ㎢と奈良県（約 3,691 ㎢）と同等程度の面積となっている。
- 管内（11 市町）の総人口は減少傾向で、令和 2（2020）年時点では約 380,000 人となっており、今後も減少が続き、本計画の最終年付近である令和 12（2030）年には約 340,000 人まで減少するものと予測されている。
- 胆振地域では全市町の人口が減少傾向にあり、西部地域では洞爺湖町、中部地域では白老町、東部地域ではむかわ町が令和 2 年から令和 27 年にかけて約 5 割減少することが予測されている。

### (2) 乗合バス、ＪＲ等公共交通機関の運行状況

- 胆振地域では、鉄道、都市間バス、路線バス、ハイヤー・タクシー、市町の実施する輸送サービスといった様々な公共交通により広域移動や地域内の移動を支える公共交通ネットワークが形成されている。
- 都市間バスは札幌市、新千歳空港（千歳市）などを結ぶ 11 路線が運行しており、路線バスは地域間幹線として国・道の補助金を受けている路線の他、広域生活交通路線や市町村生活バス路線として道・市町の補助金を受けている路線、市町からの単独補助路線として地域間を結ぶ路線や市町内を中心に運行する路線などが運行している。

## 2　地域の必要とする地域間幹線系統

- 広域行政圏の中核都市群[i]（室蘭市・苫小牧市・登別市・白老町）や中心都市[ii]（伊達市）に商業や文教施設、医療施設など住民生活に関わる施設が集積されており、高齢者や学生などの交通弱者やマイカーを持たない住民にとっては、それらとその周辺地域とを結ぶ広域的・幹線的なバス路線の維持が必要不可欠である。

## 3　地域間幹線系統確保維持の目的・必要性

- 胆振地域は、室蘭市及び苫小牧市が地域の中核として都市機能を果たしていることから、周辺地域の住民にとって必要不可欠なバス路線として、これらの都市と周辺地域とを結ぶ広域的・幹線的なバス路線である地域間幹線系統を維持することが必要である。

## 4　地域間幹線系統確保維持の目標・効果

- 中核都市・中心都市と周辺地域とを結ぶ 14 系統を維持していく。

  また、これにより、地域間幹線系統と結ばれている他のバス路線を含め地域全体として、住民の生活交通手段として必要不可欠な公共交通機関であるバス路線が確保される。

---

[i] 中核都市と相互に結びつきが強く、一体的に都市機能を発揮する都市

[ii] エリアの中で都市サービスや日常的な生活ニーズなどの面において、中核都市の機能を補完する市や町

## ５　地域間幹線系統確保維持のための課題

・　人口減少や少子高齢化等の影響により、胆振地域の交通事業者の運行業務に係る人材不足は深刻な問題となっている。そのため、地域全体が、交通事業者の運行業務に係る人材の確保対策を行う必要がある。

・　路線バス－路線バス間、路線バス－鉄道間で重複している区間が多く存在していることから、重複を改善するとともに、交通結節点を軸とした乗り換えなど、公共交通間の効率化を図る必要がある。

・　人口の減少やマイカーの普及等により、多くのバス路線が赤字路線となっていることから、利用実態・ニーズに即した路線の見直しなどを通じた乗車量の確保が課題となっている。

## ６　地域間幹線系統確保維持のための必要な支援措置

### ⑴ 維持すべき広域・幹線的路線の考え方

・　管内の地形、集落の形成状況、住民生活に係わる中心的機能の集積状況を勘案し、複数市町を経由する幹線道路上を運行し、広域行政圏の中心都市等にアクセスする地域間幹線系統路線について維持する。

### ⑵ 地域における取組

・　広域的・幹線的な路線として、利用実態・利用者のニーズに応じた効率的な運行を確立するため、定期的に協議会の開催・個別協議を実施し、利用実態や利用促進の面から検討協議を行い、路線や運行ダイヤの見直しに取り組んでいる。

表1　確保・維持する地域間幹線系統の概要

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | キロ程（km）<br>イ | 平均乗車密度<br>ロ | 運行回数<br>ハ | 輸送量（人）<br>ロ×ハ=ニ | 再編区域のキロ程（km）<br>ホ | 再編比率（%）<br>ホ÷イ=ヘ | 競合区間のキロ程（km）<br>ト | 競合率（%）<br>ト÷イ=チ | 競合系統数 | 競合区間の輸送量（人）<br>リ | 計画実車走行キロ程<br>ヌ | 経常費用見込額a（円）<br>ル | キロ当たり経常収益<br>リ×ル=ヲ | 経常収益見込額b（円）<br>ヲ－ヨ=ワ | 差額　c（円）<br>(9/20)（円） | 補助対象経費上限 d（円） | 競合区間のカット額 e（円） | 競合カット後の合計額 f（円） | みなし運行回数査定額 g（円） | 補助対象経費 h（千円） | 再編特例適用後補助対象経費 i（千円） | 運行事業者名 | 接続する地域内フィーダー系統 | 備　考 | 地域協議協議会名 | 局番号 | 中心・準中心 | 関係市町村名 | みなし運行回数 | 再編等の状況 | 平日運行回数の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 1 | 室蘭市内線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 東町ﾀｰﾐﾅﾙ | 汐平団地 | 資料館前 | 13.3 | 5.1 | 3.7 | 18.8 | | 0.000 | 8.0 | 60.100 | 23 | 178.3～466.2 | 36,827.7 | 14,188,607 | 297.62 | 10,960,660 | 3,227,947 | 3,227,947 | 1,941,622 | 1,286,325 | 0 | 1,286 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 9 | 2 | 登別・苫小牧線 | 東胆振広域市町村圏 | 苫小牧市 | 登別温泉 | 登別駅前 | 苫小牧駅前 | 49.4 | 12.3 | 4.9 | 60.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 179,420.8 | 69,125,451 | 320.76 | 57,551,015 | 11,574,436 | 11,574,436 | 0 | 11,574,436 | 0 | 11,574 | | 道南バス株式会社 | 苫小牧市樽前予約運行型バス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 登別市<br>白老町<br>苫小牧市 | | | |
| 9 | 3 | 室蘭・洞爺湖線① | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 壮瞥役場前 | 室蘭駅前広場 | 61.2 | 9.6 | 3.4 | 32.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 155,225.5 | 59,803,728 | 233.48 | 36,242,049 | 23,561,679 | 23,561,679 | 0 | 23,561,679 | 0 | 23,561 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 9 | 4 | 室蘭・洞爺湖線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 虻田高校 | 室蘭駅前広場 | 62.6 | 10.5 | 6.4 | 67.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 295,314.1 | 113,775,663 | 218.15 | 64,422,770 | 49,352,893 | 49,352,893 | 0 | 49,352,893 | 0 | 49,352 | | 道南バス株式会社 | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 9 | 5 | 室蘭・伊達線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>伊達市 | 広域センタービル | 日赤前 | 伊達駅前 | 42.1 | 8.7 | 3.0 | 26.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 92,308.5 | 35,563,695 | 245.81 | 22,690,352 | 12,873,343 | 12,873,343 | 0 | 12,873,343 | 0 | 12,873 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>伊達市（伊達市） | | | |
| 9 | 6 | 日高沿岸線① | 日高広域市町村圏<br>東胆振広域市町村圏 | 静内町<br>苫小牧市 | 静内 | 富川ターミナルとみくる・上厚真・沼ノ端駅北口 | 苫小牧駅前 | 88.4 | 11.8 | 5.1 | 60.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 332,780.4 | 128,210,304 | 229.42 | 76,346,479 | 51,863,825 | 51,863,825 | 0 | 51,863,825 | 0 | 51,863 | | 道南バス株式会社 | ・新冠町「厚賀太陽線」<br>・日高町「広富線」「豊郷線」 | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局<br>日高振興局 | 15 | 1 | 新ひだか町（静内町）<br>新冠町<br>日高町（門別町）<br>むかわ町（穌川町）<br>厚真町<br>苫小牧市 | | | |
| 9 | 7 | 胆振線 | 西胆振広域市町村圏 | 伊達市 | 伊達駅前 | 日赤前・久保内 | 大滝本町東団地 | 38.9 | 4.2 | 5.2 | 21.8 | | 0.000 | | 0.0 | | | 149,609.4 | 57,640,013 | 129.76 | 19,413,315 | 38,226,698 | 25,938,005 | 0 | 25,938,005 | 5,985,694 | 19,952 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 伊達市（伊達市、大滝村）<br>壮瞥町 | 4 | | |
| 9 | 8 | 洞爺湖温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 東町 | 洞爺湖温泉 | 洞爺駅前 | 8.3 | 5.7 | 3.9 | 22.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 25,270.0 | 9,735,772 | 230.70 | 5,829,789 | 3,905,983 | 3,905,983 | 0 | 3,905,983 | 0 | 3,905 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 9 | 9 | 室蘭・登別温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 広域センタービル | 汐平団地 | 登別温泉 | 36.2 | 13.2 | 8.2 | 108.2 | | 0.000 | 24.1 | 66.5 | 47 | 193.8～538.2 | 218,925.5 | 84,345,427 | 374.32 | 81,948,193 | 2,397,234 | 2,397,234 | 1,595,948 | 801,286 | 0 | 801 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 9 | 10 | 洞爺湖温泉線② | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 昭和新山 | 虻田高校 | 洞爺駅前 | 15.3 | 9.7 | 4.9 | 47.5 | | 0.000 | | 0.0 | | | 55,722.6 | 21,468,246 | 285.29 | 15,897,100 | 5,571,146 | 5,571,146 | 0 | 5,571,146 | 0 | 5,571 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 9 | 11 | 千歳線 | 札幌ふるさと広域市町村 | 千歳市 | 厚真 | 早来 | 千歳駅前 | 36.6 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 80,154.0 | 25,162,745 | 197.20 | 15,806,368 | 9,356,377 | 9,356,377 | 0 | 9,356,377 | 0 | 9,356 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振・石狩 | 15 | 2 | 厚真町・安平町<br>千歳市 | | | |
| 9 | 12 | 苫小牧線① | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 上厚真 | 苫小牧駅前 | 41.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 89,580.0 | 28,121,849 | 147.45 | 13,208,571 | 14,913,278 | 12,654,832 | 0 | 12,654,832 | 0 | 12,654 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・苫小牧市 | | | |
| 9 | 13 | 苫小牧線② | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 緑小 | 苫小牧駅前 | 35.9 | 5.1 | 3.0 | 15.3 | | 0.000 | | 0.0 | | | 78,621.0 | 24,681,490 | 170.21 | 13,382,080 | 11,299,410 | 11,106,670 | 0 | 11,106,670 | 0 | 11,106 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |
| 9 | 14 | 苫小牧線③ | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 日軽金 | 苫小牧駅前 | 34.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 74,898.0 | 23,512,729 | 177.46 | 13,291,399 | 10,221,330 | 10,221,330 | 0 | 10,221,330 | 0 | 10,221 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |

表1　確保・維持する地域間幹線系統の概要

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | キロ程（km）<br>イ | 平均乗車密度<br>ロ | 運行回数<br>ハ | 輸送量（人）<br>ロ×ハ=ニ | 再編区域のキロ程（km）<br>ホ | 再編比率（%）<br>ホ÷イ=ヘ | 競合区間のキロ程（km）<br>ト | 競合率（%）<br>ト÷イ=チ | 競合系統数 | 競合区間の輸送量（人） | 計画実車走行キロ程<br>リ | 経常費用見込額a（円）<br>ヌ | キロ当たり経常収益<br>ル | 経常収益見込額b（円）<br>リ×ル=ヲ | 差額　c（円）<br>ヌ−ヲ=ワ | 補助対象経費上限 d（9/20）（円） | 競合区間のカット額 e（円） | 競合カット後の合計額 f（円） | みなし運行回数査定額 g（円） | 補助対象経費 h（千円） | 再編特例適用後補助対象経費 i（千円） | 運行事業者名 | 接続する地域内フィーダー系統 | 備　考 | 地域協議協議会名 | 局番号 | 中心・準中心 | 関係市町村名 | みなし運行回数 | 再編等の状況 | 平日運行回数の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 1 | 室蘭市内線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 東町ﾀｰﾐﾅﾙ | 汐平団地 | 資料館前 | 13.3 | 5.1 | 3.7 | 18.8 | | 0.000 | 8.0 | 60.100 | 23 | 178.3～466.2 | 36,827.7 | 14,188,607 | 297.62 | 10,960,660 | 3,227,947 | 3,227,947 | 1,941,622 | 1,286,325 | 0 | 1,286 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 10 | 2 | 登別・苫小牧線 | 東胆振広域市町村圏 | 苫小牧市 | 登別温泉 | 登別駅前 | 苫小牧駅前 | 49.4 | 12.3 | 4.9 | 60.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 179,420.8 | 69,125,451 | 320.76 | 57,551,015 | 11,574,436 | 11,574,436 | 0 | 11,574,436 | 0 | 11,574 | | 道南バス株式会社 | 苫小牧市樽前予約運行型バス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 登別市<br>白老町<br>苫小牧市 | | | |
| 10 | 3 | 室蘭・洞爺湖線① | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 壮瞥役場前 | 室蘭駅前広場 | 61.2 | 9.6 | 3.4 | 32.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 155,225.5 | 59,803,728 | 233.48 | 36,242,049 | 23,561,679 | 23,561,679 | 0 | 23,561,679 | 0 | 23,561 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 10 | 4 | 室蘭・洞爺湖線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 虻田高校 | 室蘭駅前広場 | 62.6 | 10.5 | 6.4 | 67.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 295,314.1 | 113,775,663 | 218.15 | 64,422,770 | 49,352,893 | 49,352,893 | 0 | 49,352,893 | 0 | 49,352 | | 道南バス株式会社 | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 10 | 5 | 室蘭・伊達線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>伊達市 | 広域センタービル | 日赤前 | 伊達駅前 | 42.1 | 8.7 | 3.0 | 26.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 92,308.5 | 35,563,695 | 245.81 | 22,690,352 | 12,873,343 | 12,873,343 | 0 | 12,873,343 | 0 | 12,873 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>伊達市（伊達市） | | | |
| 10 | 6 | 日高沿岸線① | 日高広域市町村圏<br>東胆振広域市町村圏 | 静内町<br>苫小牧市 | 静内 | 富川ターミナルとみくる・上厚真・沼ノ端駅北口 | 苫小牧駅前 | 88.4 | 11.8 | 5.1 | 60.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 332,780.4 | 128,210,304 | 229.42 | 76,346,479 | 51,863,825 | 51,863,825 | 0 | 51,863,825 | 0 | 51,863 | | 道南バス株式会社 | ・新冠町「厚賀太陽線」<br>・日高町「広富線」「豊郷線」 | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局<br>日高振興局 | 15 | 1 | 新ひだか町（静内町）<br>新冠町<br>日高町（門別町）<br>むかわ町（穂川町）<br>厚真町<br>苫小牧市 | | | |
| 10 | 7 | 胆振線 | 西胆振広域市町村圏 | 伊達市 | 伊達駅前 | 日赤前・久保内 | 大滝本町東団地 | 38.9 | 4.2 | 5.2 | 21.8 | | 0.000 | | 0.0 | | | 149,609.4 | 57,640,013 | 129.76 | 19,413,315 | 38,226,698 | 25,938,005 | 0 | 25,938,005 | 5,985,694 | 19,952 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 伊達市（伊達市、大滝村）<br>壮瞥町 | 4 | | |
| 10 | 8 | 洞爺湖温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 東町 | 洞爺湖温泉 | 洞爺駅前 | 8.3 | 5.7 | 3.9 | 22.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 25,270.0 | 9,735,772 | 230.70 | 5,829,789 | 3,905,983 | 3,905,983 | 0 | 3,905,983 | 0 | 3,905 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 10 | 9 | 室蘭・登別温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 広域センタービル | 汐平団地 | 登別温泉 | 36.2 | 13.2 | 8.2 | 108.2 | | 0.000 | 24.1 | 66.5 | 47 | 193.8～538.2 | 218,925.5 | 84,345,427 | 374.32 | 81,948,193 | 2,397,234 | 2,397,234 | 1,595,948 | 801,286 | 0 | 801 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 10 | 10 | 洞爺湖温泉線② | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 昭和新山 | 虻田高校 | 洞爺駅前 | 15.3 | 9.7 | 4.9 | 47.5 | | 0.000 | | 0.0 | | | 55,722.6 | 21,468,246 | 285.29 | 15,897,100 | 5,571,146 | 5,571,146 | 0 | 5,571,146 | 0 | 5,571 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 10 | 11 | 千歳線 | 札幌ふるさと広域市町村 | 千歳市 | 厚真 | 早来 | 千歳駅前 | 36.6 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 80,154.0 | 25,162,745 | 197.20 | 15,806,368 | 9,356,377 | 9,356,377 | 0 | 9,356,377 | 0 | 9,356 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振・石狩 | 15 | 2 | 厚真町・安平町<br>千歳市 | | | |
| 10 | 12 | 苫小牧線① | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 上厚真 | 苫小牧駅前 | 41.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 89,580.0 | 28,121,849 | 147.45 | 13,208,571 | 14,913,278 | 12,654,832 | 0 | 12,654,832 | 0 | 12,654 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・苫小牧市 | | | |
| 10 | 13 | 苫小牧線② | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 緑小 | 苫小牧駅前 | 35.9 | 5.1 | 3.0 | 15.3 | | 0.000 | | 0.0 | | | 78,621.0 | 24,681,490 | 170.21 | 13,382,080 | 11,299,410 | 11,106,670 | 0 | 11,106,670 | 0 | 11,106 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |
| 10 | 14 | 苫小牧線③ | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 日軽金 | 苫小牧駅前 | 34.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 74,898.0 | 23,512,729 | 177.46 | 13,291,399 | 10,221,330 | 10,221,330 | 0 | 10,221,330 | 0 | 10,221 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |

表1　確保・維持する地域間幹線系統の概要

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | キロ程（km）<br>イ | 平均乗車密度<br>ロ | 運行回数<br>ハ | 輸送量（人）<br>ロ×ハ=ニ | 再編区域のキロ程（km）<br>ホ | 再編比率（%）<br>ホ÷イ=ヘ | 競合区間のキロ程（km）<br>ト | 競合率（%）<br>ト÷イ=チ | 競合系統数 | 競合区間の輸送量（人） | 計画実車走行キロ程<br>リ | 経常費用見込額a（円）<br>ヌ | キロ当たり経常収益<br>ル | 経常収益見込額b（円）<br>リ×ル=ヲ | 差額　c（円）<br>ヌ−ヲ=ワ | 補助対象経費上限 d（9/20）（円） | 競合区間のカット額 e（円） | 競合カット後の合計額 f（円） | みなし運行回数査定額 g（円） | 補助対象経費 h（千円） | 再編特例適用後補助対象経費 i（千円） | 運行事業者名 | 接続する地域内フィーダー系統 | 備　考 | 地域協議協議会名 | 局番号 | 中心・準中心 | 関係市町村名 | みなし運行回数 | 再編等の状況 | 平日運行回数の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 1 | 室蘭市内線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 東町ﾀｰﾐﾅﾙ | 汐平団地 | 資料館前 | 13.3 | 5.1 | 3.7 | 18.8 | | 0.000 | 8.0 | 60.100 | 23 | 178.3～466.2 | 36,827.7 | 14,188,607 | 297.62 | 10,960,660 | 3,227,947 | 3,227,947 | 1,941,622 | 1,286,325 | 0 | 1,286 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 11 | 2 | 登別・苫小牧線 | 東胆振広域市町村圏 | 苫小牧市 | 登別温泉 | 登別駅前 | 苫小牧駅前 | 49.4 | 12.3 | 4.9 | 60.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 179,420.8 | 69,125,451 | 320.76 | 57,551,015 | 11,574,436 | 11,574,436 | 0 | 11,574,436 | 0 | 11,574 | | 道南バス株式会社 | 苫小牧市樽前予約運行型バス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 登別市<br>白老町<br>苫小牧市 | | | |
| 11 | 3 | 室蘭・洞爺湖線① | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 壮瞥役場前 | 室蘭駅前広場 | 61.2 | 9.6 | 3.4 | 32.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 155,225.5 | 59,803,728 | 233.48 | 36,242,049 | 23,561,679 | 23,561,679 | 0 | 23,561,679 | 0 | 23,561 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 11 | 4 | 室蘭・洞爺湖線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 虻田高校 | 室蘭駅前広場 | 62.6 | 10.5 | 6.4 | 67.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 295,314.1 | 113,775,663 | 218.15 | 64,422,770 | 49,352,893 | 49,352,893 | 0 | 49,352,893 | 0 | 49,352 | | 道南バス株式会社 | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 洞爺湖町（虻田町）<br>伊達市（伊達市）<br>室蘭市 | | | |
| 11 | 5 | 室蘭・伊達線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>伊達市 | 広域センタービル | 日赤前 | 伊達駅前 | 42.1 | 8.7 | 3.0 | 26.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 92,308.5 | 35,563,695 | 245.81 | 22,690,352 | 12,873,343 | 12,873,343 | 0 | 12,873,343 | 0 | 12,873 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>伊達市（伊達市） | | | |
| 11 | 6 | 日高沿岸線① | 日高広域市町村圏<br>東胆振広域市町村圏 | 静内町<br>苫小牧市 | 静内 | 富川ターミナルとみくる・上厚真・沼ノ端駅北口 | 苫小牧駅前 | 88.4 | 11.8 | 5.1 | 60.1 | | 0.000 | | 0.0 | | | 332,780.4 | 128,210,304 | 229.42 | 76,346,479 | 51,863,825 | 51,863,825 | 0 | 51,863,825 | 0 | 51,863 | | 道南バス株式会社 | ・新冠町「厚賀太陽線」<br>・日高町「広富線」「豊郷線」 | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局<br>日高振興局 | 15 | 1 | 新ひだか町（静内町）<br>新冠町<br>日高町（門別町）<br>むかわ町（穌川町）<br>厚真町<br>苫小牧市 | | | |
| 11 | 7 | 胆振線 | 西胆振広域市町村圏 | 伊達市 | 伊達駅前 | 日赤前・久保内 | 大滝本町東団地 | 38.9 | 4.2 | 5.2 | 21.8 | | 0.000 | | 0.0 | | | 149,609.4 | 57,640,013 | 129.76 | 19,413,315 | 38,226,698 | 25,938,005 | 0 | 25,938,005 | 5,985,694 | 19,952 | | 道南バス株式会社 | 壮瞥町コミュニティタクシー | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 伊達市（伊達市、大滝村）<br>壮瞥町 | 4 | | |
| 11 | 8 | 洞爺湖温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 東町 | 洞爺湖温泉 | 洞爺駅前 | 8.3 | 5.7 | 3.9 | 22.2 | | 0.000 | | 0.0 | | | 25,270.0 | 9,735,772 | 230.70 | 5,829,789 | 3,905,983 | 3,905,983 | 0 | 3,905,983 | 0 | 3,905 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 11 | 9 | 室蘭・登別温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 広域センタービル | 汐平団地 | 登別温泉 | 36.2 | 13.2 | 8.2 | 108.2 | | 0.000 | 24.1 | 66.5 | 47 | 193.8～538.2 | 218,925.5 | 84,345,427 | 374.32 | 81,948,193 | 2,397,234 | 2,397,234 | 1,595,948 | 801,286 | 0 | 801 | | 道南バス株式会社 | | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 1 | 室蘭市<br>登別市 | | | |
| 11 | 10 | 洞爺湖温泉線② | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 昭和新山 | 虻田高校 | 洞爺駅前 | 15.3 | 9.7 | 4.9 | 47.5 | | 0.000 | | 0.0 | | | 55,722.6 | 21,468,246 | 285.29 | 15,897,100 | 5,571,146 | 5,571,146 | 0 | 5,571,146 | 0 | 5,571 | | 道南バス株式会社 | ・洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>・壮瞥町コミュニティタクシー<br>・豊浦町コミュニティバス | R8国補助対象系統 | 胆振総合振興局 | 4 | 2 | 洞爺湖町（虻田町）<br>壮瞥町 | | | |
| 11 | 11 | 千歳線 | 札幌ふるさと広域市町村 | 千歳市 | 厚真 | 早来 | 千歳駅前 | 36.6 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 80,154.0 | 25,162,745 | 197.20 | 15,806,368 | 9,356,377 | 9,356,377 | 0 | 9,356,377 | 0 | 9,356 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振・石狩 | 15 | 2 | 厚真町・安平町<br>千歳市 | | | |
| 11 | 12 | 苫小牧線① | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 上厚真 | 苫小牧駅前 | 41.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 89,580.0 | 28,121,849 | 147.45 | 13,208,571 | 14,913,278 | 12,654,832 | 0 | 12,654,832 | 0 | 12,654 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・苫小牧市 | | | |
| 11 | 13 | 苫小牧線② | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 緑小 | 苫小牧駅前 | 35.9 | 5.1 | 3.0 | 15.3 | | 0.000 | | 0.0 | | | 78,621.0 | 24,681,490 | 170.21 | 13,382,080 | 11,299,410 | 11,106,670 | 0 | 11,106,670 | 0 | 11,106 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |
| 11 | 14 | 苫小牧線③ | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 日軽金 | 苫小牧駅前 | 34.2 | 5.2 | 3.0 | 15.6 | | 0.000 | | 0.0 | | | 74,898.0 | 23,512,729 | 177.46 | 13,291,399 | 10,221,330 | 10,221,330 | 0 | 10,221,330 | 0 | 10,221 | | あつまバス㈱ | 厚真町3系統<br>安平町1系統 | R8国補助対象系統 | 胆振 | 4 | 1 | 厚真町・安平町<br>苫小牧市 | | | |

表４　地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱別表１及び別表3の補助事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧

| 協議会名 | 広域行政圏名 | 市町村名 | 指定の理由 |
|---|---|---|---|
| 胆振地域公共交通活性化協議会 | 西胆振広域市町村圏 | 伊達市 | 人口、商業施設は圏域内市町村の中で高い割合を占め、地域の核となる総合病院（地域センター病院：伊達赤十字病院）など医療施設や行政機関が集積し、当該地域の中心的な都市（まち）となっている。 |
| | 西胆振広域市町村圏 | 洞爺湖町（※虻田町） | 交通の要衝となっており、人口、商業施設は圏域内町村の中で最も高い割合を占め、地域の核となる総合病院（洞爺協会病院）が所在するなど、当該地域の中心的な町となっている。<br>※平成18年３月27日合併 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭市内線② | 起点 | 東町ターミナル | 終点 | 資料館前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 汐平団地 | | |
| 関係市町村 | 室蘭市、登別市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 室蘭市・登別市学生の登別青嶺高校・明日中等学校までの通学、室蘭市・登別市住民の沿線（鷲別町・栄町・若山町）までの通勤などの交通手段確保のため | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 1,847 | 923.5 | 923.5 | 327.12 | 436.25 | 224.78 | 8.4 | 77,597 | 4.6 | 68.7 | × | ○ | ○ | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 2,322 | 1,161.0 | 1,161.0 | 341.82 | 447.28 | 234.31 | 8.4 | 81,086 | 5.2 | 68.5 | × | × | ○ | 0 | |
| 7（当該年度） | 1,724 | 862.0 | 862.0 | 350.28 | 460.26 | 250.46 | 4.4 | 52,041 | 6.1 | 71.5 | × | × | ○ | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 自社路線と複数競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、競合する「室蘭・登別温泉線」の経路変更により競合区間が増えるため、利用状況を勘案し運行回数・ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR幌別駅を経由しており、競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>平成30年より、8月13～15日は土日祝ダイヤで運行している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、競合率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 室蘭市都市建設部都市政策推進課、登別市市民生活部市民協働グループ | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月）<br>収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 登別・苫小牧線 |
|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 |
| 関係市町村 | 登別市、白老町、苫小牧市 |

| 起点 | 登別温泉 | 終点 | 苫小牧市立病院 |
|---|---|---|---|
| 経由地 | 登別駅前 | | |

| 路線の維持目的 |
|---|
| 登別市・白老町住民の白老町立病院・苫小牧市立病院までの通院、登別市・白老町住民の登別温泉・虎杖浜・竹浦までの通勤、白老町住民の苫小牧市街までの買物などの交通手段確保のため |

| 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|
| 苫小牧市樽前予約運行型バス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 26,091 | 13,045.5 | 13,045.5 | 327.12 | 436.25 | 191.31 | 4.9 | 83,468 | 6.2 | 58.4 | × | × | × | 0 | |
| 6（前年度） | 29,757 | 14,878.5 | 14,878.5 | 341.82 | 447.28 | 173.75 | 4.9 | 85,634 | 6.5 | 50.8 | ○ | × | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 27,307 | 13,653.5 | 13,653.5 | 350.28 | 460.26 | 210.66 | 4.9 | 157,550 | 11.3 | 60.1 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 登別～苫小牧間はJRが平行している。<br>白老町コミュニティバス、自社路線と一部競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 当該系統については、白老町「白老橋」改良工事のため迂回運行を継続。<br>また、令和7年10月1日ダイヤ改正において、運行経路の短縮（苫小牧市立病院→苫小牧駅前）を行った。 |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | バス乗車券と温泉入浴のセット乗車券を発売している。<br>白老で白老コミュニティバスと、錦岡で樽前予約運行型バスと接続が図られている。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市1町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 登別市市民生活部市民協働グループ、白老町政策推進課地域戦略推進グループ、苫小牧市 総合政策部 まちづくり推進室 まちづくり推進課 | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式１－１

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・（振り返り））

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・洞爺湖線① | 起点 | 洞爺湖温泉 | 終点 | 室蘭駅前広場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 壮瞥役場前 | | |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、壮瞥町、伊達市（伊達市）、室蘭市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町・壮瞥町学生の壮瞥高校・伊達開来高校までの通学、壮瞥町・伊達市・室蘭市住民の伊達赤十字病院・聖ヶ丘病院・製鉄記念室蘭病院・日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院などの交通手段確保のため | 壮瞥町コミュニティタクシー |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 28,931 | 14,465.5 | 14,465.5 | 327.12 | 436.25 | 196.63 | 4.9 | 117,177 | 6.2 | 60.1 | × | × | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 34,065 | 17,032.5 | 17,032.5 | 341.82 | 447.28 | 185.29 | 4.9 | 117,618 | 6.4 | 54.2 | ○ | × | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 24,554 | 12,277.0 | 12,277.0 | 350.28 | 460.26 | 179.90 | 3.4 | 93,341 | 7.3 | 51.3 | ○ | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～長和間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線②、室蘭・伊達線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス）<br>また伊達市内の「館山橋」改良工事が終了し通行止めが解除されたことから、一部経路変更を実施する（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月１日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、伊達市内の「館山橋」改良工事が終了したことから旧経路への変更を行なうとともに、競合する「胆振線」「室蘭・洞爺湖線②」「室蘭・伊達線」等の利用状況も勘案し、運行回数・ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭、伊達）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市2町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 洞爺湖町企画防災課、壮瞥町企画財政課、伊達市企画財政部企画財政課、室蘭市都市建設部都市政策推進課 | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・洞爺湖線② | 起点 | 洞爺湖温泉 | 終点 | 室蘭駅前広場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 虻田高校 | | |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、伊達市、室蘭市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町・伊達市学生の伊達開来高校までの通学、洞爺湖町・伊達市・室蘭市住民の伊達赤十字病院・聖ヶ丘病院・製鉄記念室蘭病院・日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院、洞爺湖町・伊達市住民の伊達市街までの買物などの交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 44,176 | 22,088.0 | 22,088.0 | 327.12 | 436.25 | 189.56 | 6.9 | 157,722 | 5.7 | 57.9 | × | × | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 49,426 | 24,713.0 | 24,713.0 | 341.82 | 447.28 | 167.05 | 6.9 | 148,503 | 5.5 | 48.8 | ○ | × | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 47,139 | 23,569.5 | 23,569.5 | 350.28 | 460.26 | 154.26 | 6.4 | 150,558 | 6.0 | 44.0 | ○ | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～長和間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線①、室蘭・伊達線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス）<br>また伊達市内の「館山橋」改良工事が終了し通行止めが解除されたことから、一部経路変更を実施する（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、伊達市内の「館山橋」改良工事が終了したことから旧経路への変更を行なうとともに、競合する「室蘭・洞爺湖線①」「室蘭・伊達線」等の利用状況も勘案し、運行回数・ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭、伊達、洞爺）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>JR洞爺駅～洞爺湖温泉間のご利用に限り（WeChatPay）も実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市1町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 洞爺湖町企画防災課、伊達市企画財政部企画財政課、室蘭市都市建設部都市政策推進課 | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式１－１

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・（振り返り））

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・伊達線 | 起点 | 広域センタービル | 終点 | 伊達駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 日赤前 | | |
| 関係市町村 | 室蘭市、伊達市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 室蘭市学生の伊達開来高校までの通学、室蘭市・伊達市住民の室蘭市立病院・日鋼記念病院・伊達赤十字病院までの通院、室蘭市・伊達市住民の沿線の通勤などの交通手段確保のため | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 10,199 | 5,099.5 | 5,099.5 | 327.12 | 436.25 | 232.79 | 3.6 | 73,423 | 7.0 | 71.1 | × | × | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 13,763 | 6,881.5 | 6,881.5 | 341.82 | 447.28 | 214.19 | 3.6 | 69,894 | 7.0 | 62.6 | × | × | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 13,651 | 6,825.5 | 6,825.5 | 350.28 | 460.26 | 202.39 | 3.0 | 70,573 | 8.4 | 57.7 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～伊達間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線①、室蘭・洞爺湖線②と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス）<br>また伊達市内の「館山橋」改良工事が終了し通行止めが解除されたことから、一部経路変更を実施する（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月１日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、伊達市内の「館山橋」改良工事が終了したことから旧経路への変更を行なうとともに、競合する「室蘭・洞爺湖線①」「室蘭・洞爺湖線②」等の利用状況も勘案し、運行回数・ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 室蘭市都市建設部都市政策推進課、伊達市企画財政部企画財政課 | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 日高沿岸線① | 起点 | 静内 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 上厚真・沼ノ端駅北口 | | |
| 関係市町村 | 新ひだか町（静内町）、新冠町、日高町（門別町）、むかわ町（鵡川町）、厚真町、苫小牧市 | | | | |

**路線の維持目的**

沿線各町住民の苫小牧市内までの通勤・通学・通院・買物、日高町・新冠町から静内市街までの買物などの交通手段確保のため

**関係する地域内フィーダー系統**

新冠町「厚賀太陽線」
日高町「広富線」「豊郷線」
厚真町「南部地区線」

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 48,825 | 24,412.5 | 24,412.5 | 327.12 | 436.25 | 155.85 | 5.1 | 112,092 | 6.5 | 47.6 | ○ | × | × | 4,801.2 | |
| 6（前年度） | 51,150 | 25,575.0 | 25,575.0 | 341.82 | 447.28 | 142.86 | 5.1 | 111,531 | 6.6 | 41.7 | ○ | × | × | 3,891.1 | |
| 7（当該年度） | 52,349 | 26,174.5 | 26,174.5 | 350.28 | 460.26 | 153.69 | 5.1 | 176,748 | 9.0 | 43.8 | ○ | × | × | 0.0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | JR日高線（鵡川～様似間）廃止後の沿線住民の移動手段の確保と高校への通学・通院等の利便性を高めるため、経路・回数・時間等の見直しを実施。<br>主に国道235号線を運行しており、当該系統は経由地の異なる3系統を集約している。<br>一部の区間で、あつまバス、各町のコミュニティバス、自社路線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努めるとともに、令和7年4月に供用開始予定の「富川バスターミナル」への乗り入れ、運行回数やダイヤ等の見直しについての協議を行う（道南バス） | 令和7年10月1日ダイヤ改正時より「富川バスターミナル」への乗り入れを実施した。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 自社路線と重複する区間は時間調整している<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している。 | | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 沿線住民への周知及び利用促進についてバス事業者と沿線自治体とで協議し、具体的な利用促進策を実施する（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 引き続き省エネ運転に関する取り組みを実践するとともに、路線再編により車両運用方法を見直すことで経費削減を図る（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 「収支率」で補助対象経費カットの状況にある。<br>JR日高線（鵡川～様似間）廃止後の代替交通として通勤・通学・通院などに利用されており、沿線住民の交通手段として維持する必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、系統再編も含めた路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 主に日高地域公共交通確保対策協議会において、路線の維持・必要性等について協議を行なっている。<br>持続可能な交通体系を構築するため、最適化についての検討・協議を行う。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| むかわ町総務企画課、厚真町まちづくり推進課、苫小牧市 総合政策部 未来創造戦略室 | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 起点 | 終点 | 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|---|---|---|
| 胆振線 | 伊達駅前 | 大滝本町東団地 | 国鉄廃止後の代替路線であり、伊達市大滝区・壮瞥町から壮瞥高校・伊達開来高校までの通学や伊達赤十字病院までの通院などの交通手段確保のため | 壮瞥町コミュニティタクシー |
| 事業者名：道南バス株式会社 | 経由地：日赤前、久保内 | | | |
| 関係市町村：伊達市（伊達市、大滝村）、壮瞥町 | | | | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| 5（前々年度） | 16,928 | 8,464.0 | 8,464.0 | 327.12 | 436.25 | 128.55 | 5.2 | 48,844 | 4.0 | 39.2 | ○ | ○ | × | 17,902.6 | |
| 6（前年度） | 17,670 | 8,835.0 | 8,835.0 | 341.82 | 447.28 | 127.94 | 5.2 | 49,860 | 4.0 | 37.4 | ○ | ○ | × | 21,905.2 | |
| 7（当該年度） | 18,205 | 9,102.5 | 9,102.5 | 350.28 | 460.26 | 123.83 | 5.2 | 47,278 | 4.0 | 35.3 | ○ | ○ | × | 21,982.7 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 国鉄廃止後の代替バス路線であり、旧国鉄線に沿った国道453号を運行している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、伊達市内の「館山橋」改良工事が終了したことから旧経路への変更を行なうとともに、一部ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは重複しないよう時間調整している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 国鉄胆振線廃止後の代替路線であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カット及びみなしカットの状況にある。 | 収支率カット及びみなしカット発生しているものの自治体から支援を受けており、関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線維持に努める。（道南バス、関係自治体） | 胆振線代替バス連絡協議会において、路線の維持・必要性等について協議を行なっているが、運転手不足や労働時間の改善等、今後の路線の維持方策等について早急に関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 伊達市企画財政部企画財政課、壮瞥町企画財政課 | 今後も事業者及び関係町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 洞爺湖温泉線 | 起点 | 東町 | 終点 | しおさい前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 洞爺湖温泉・のぞみ団地・協会病院前・清水中央 | | |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、壮瞥町、豊浦町 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町住民の洞爺湖温泉街までの通勤、協会病院までの通院、「豊浦線」運行終了に伴う豊浦町民の伊達方面への交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 1,534 | 767.0 | 767.0 | 327.12 | 436.25 | 174.07 | 3.9 | 15,684 | 2.2 | 53.2 | ○ | ○ | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 1,397 | 698.5 | 698.5 | 341.82 | 447.28 | 134.06 | 3.9 | 9,689 | 1.3 | 39.2 | ○ | ○ | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 2,848 | 1,424.0 | 1,424.0 | 350.28 | 460.26 | 127.43 | 3.9 | 17,333 | 2.7 | 36.3 | ○ | ○ | × | 3,922 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭・洞爺湖線①、洞爺湖温泉線②と競合している。<br>洞爺湖町内における経路変更を実施(5年10月) | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、「豊浦線」の廃止に伴い再編。<br>豊浦町民の洞爺湖町及び伊達市街への移動を確保するため「しおさい前」まで延伸するとともに、「室蘭・洞爺湖線②」との接続を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カット及びみなしカットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 壮瞥町企画財政課、洞爺湖町企画防災課 | 今後も事業者及び関係町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・登別温泉線 | 起点 | 広域センタービル | 終点 | 登別温泉 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 汐平団地 | | |
| 関係市町村 | 室蘭市、登別市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 登別市学生の室蘭清水丘高校までの通学、登別市・室蘭市住民の沿線の通勤、登別市住民の日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院などの交通手段確保のため | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 21,516 | 10,758.0 | 10,758.0 | 327.12 | 436.25 | 222.90 | 8.4 | 119,400 | 5.5 | 68.1 | × | × | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 11,967 | 5,983.5 | 5,983.5 | 341.82 | 447.28 | 211.15 | 8.4 | 132,151 | 6.5 | 61.7 | × | × | ○ | 0 | |
| 7（当該年度） | 13,125 | 6,562.5 | 6,562.5 | 350.28 | 460.26 | 226.98 | 8.2 | 188,833 | 9.4 | 64.7 | × | × | ○ | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～登別間はJRが平行している。<br>室蘭～東室蘭間、登別～登別温泉間で自社路線と複数競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、登別市内（幌別地区～富岸地区の間）における運行経路を「国道沿い（海側）」から「市街地側」へと変更するとともに、競合系統の利用状況を勘案し運行回数・ダイヤの変更を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR登別駅を経由しており、競合路線とは時間調整している。<br>バス乗車券と温泉入浴のセット乗車券を発売している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>JR登別駅～登別温泉間のご利用に限り（WeChatPay）も実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、競合率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 室蘭市都市建設部都市政策推進課、登別市市民生活部市民協働グループ | 今後も事業者及び市町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月）<br>収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系　統　名 | 洞爺湖温泉線② | 起　点 | 昭和新山 | 終　点 | 洞爺駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事 業 者 名 | 道南バス株式会社 | 経　由　地 | 虻田高校・協会病院前 | | |
| 関係市町村 | 壮瞥町、洞爺湖町（虻田町） | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町住民の洞爺湖温泉街までの通勤、洞爺湖温泉から虻田高校までの通学などの交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5（前々年度） | 1,207 | 603.5 | 603.5 | 327.12 | 436.25 | 183.91 | 4.9 | 14,148 | 1.8 | 56.2 | × | ○ | × | 0 | 令和7年度当初計画から変更 |
| 6（前年度） | 1,322 | 661.0 | 661.0 | 341.82 | 447.28 | 126.01 | 4.9 | 11,221 | 1.5 | 36.8 | ○ | ○ | × | 0 | |
| 7（当該年度） | 5,813 | 2,906.5 | 2,906.5 | 350.28 | 460.26 | 115.28 | 4.9 | 29,678 | 3.4 | 32.9 | ○ | ○ | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭・洞爺湖線①、洞爺湖温泉線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | 運転手不足が深刻な問題であり、加えて拘束時間等の諸問題を解消し労働環境の改善を図るため、令和6年10月1日にダイヤ改正を実施。<br>当該系統については、「洞爺湖温泉線①」の減便に伴う利便の確保（一部の区間）、また通院や買い物、観光需要の取り込み等を目的とし、「東町」から「昭和新山」まで延伸を行なった。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | 同上 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | 「創立100周年」にあたり記念事業を実施、PR・利用促進に取り組んだ（7年7月～）<br>・パネル展の開催　・バスコレ販売　・バスの乗り方教室<br>・歴代のデザインを復刻したラッピングバス運行 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | 現在の取り組みを継続して実施していく。<br>海外情勢の影響により費用の増加が想定されることから運行便数の見直し等による車両運用の効率化を検討していく。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カット及びみなしカットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | 必要に応じて意見交換を図っているが、今後路線の維持方策について関係自治体と協議していく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年5月） |
|---|---|
| 壮瞥町企画財政課、洞爺湖町企画防災課 | 今後も事業者及び関係町がより連携を深め、収支改善に向けた取り組みを継続し、地域住民の交通手段を確保する。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月）<br>収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 千歳線 | 起点 | 厚真 | 終点 | 千歳駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 | 経由地 | 早来 | | |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、千歳市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 厚真町学生のJR早来駅までの通学、厚真町・安平町住民の千歳市内までの通院・通勤・買物 | 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R5（前々年度） | 8,803 | 4,401.5 | 4,401.5 | 303.56 | 436.25 | 193.73 | 3.0 | 27,334 | 5.1 | 63.82 | × | × | × | | |
| R6（前年度） | 9,066 | 4,533 | 4,533 | 302.43 | 447.28 | 189.62 | 3.0 | 28,185 | 5.1 | 62.70 | × | × | × | | |
| R7（当該年度） | 9,010 | 4,505 | 4,505 | 303.69 | 460.26 | 191.28 | 3.0 | 28,575 | 5.0 | 62.98 | × | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 厚真⇔早来駅間は他系統と競合しているが、幹線道路が一本であり運行便数も少ないので、利用者の利便性確保のためにはやむを得ない。千歳市内で他社と競合しているが維持目的からもやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | ・概ね適正なルート及び停留所の設定となっている。<br>・今後も利用状況、ニーズを踏まえて検討を行う。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | ・概ね適正であるが、今後もJR、フィーダー系統との乗り継ぎを考慮してダイヤ改正を行う。 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントへの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・PHにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | ・左記の取組を継続して実施。<br>・イベントの開催への交通手段情報を「広報とまこまい」に掲載いただいた。 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | ・引き続きエコドライブの指導を行い、費用の削減に努めた。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | ・路線の維持は必要であると考えるので、今後も利用者の維持、回復に繋がる取組を関係自治体と協議を行っていく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年4月） |
|---|---|
| 厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>千歳市企画部交通政策課交通政策係 | 概ね計画通りに取り組みを実施した。今後も関係自治体と連携し、利用者数の維持確保に繋がる取組・検討を継続して実施していく。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線① |
|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 |
| 関係市町村 | 厚真町、苫小牧市 |

| 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅 |
|---|---|---|---|
| 経由地 | 上厚真 | | |

| 路線の維持目的 |
|---|
| 厚真町学生の苫小牧市までの通学<br>厚真町住民の苫小牧市内、通院・通勤・買物 |

| 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|
| 厚真町　運行3系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R5（前々年度） | 12,238 | 6,119.0 | 6,119.0 | 303.56 | 436.25 | 142.88 | 3.0 | 22,239 | 5.1 | 47.07 | ○ | × | × | 2,155 | |
| R6（前年度） | 12,224 | 6,112.0 | 6,112.0 | 302.43 | 436.25 | 141.61 | 3.0 | 24,280 | 5.1 | 46.82 | ○ | × | × | 2,220 | |
| R7（当該年度） | 8,162 | 4,081 | 4,081 | 303.69 | 460.26 | 148.13 | 3.0 | 24,412 | 4.9 | 48.77 | ○ | ○ | × | 5,774 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。<br>上厚真⇔苫小牧駅前間で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | ・概ね適正なルート及び停留所の設定となっている。<br>・今後も利用状況、ニーズを踏まえて検討を行う。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | ・概ね適正であるが、今後もJR、フィーダー系統との乗り継ぎを考慮してダイヤ改正を行う。 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | ・左記の取組を継続して実施。<br>・イベントの開催への交通手段情報を「広報とまこまい」に掲載いただいた。 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | ・引き続きエコドライブの指導を行い、費用の削減に努めた。 |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | ・路線の維持は必要であると考えるので、今後も利用者の維持、回復に繋がる取組を関係自治体と協議を行っていく。 |

## 意見反映（利用者等の）

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br>【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 【計画への反映等】<br>状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年4月） |
|---|---|
| 厚真町まちづくり推進課　苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課 | 概ね計画通りに取り組みを実施した。今後も関係自治体と連携、協議を行っていく。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月）<br>収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線② | 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 | 経由地 | 緑小 | | |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、苫小牧市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 厚真町学生の苫小牧までの通学<br>厚真町・安平町住民の苫小牧市内までの通院・通勤・通学 | 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R5（前々年度） | 10,739 | 5,369.5 | 5,369.5 | 303.56 | 436.25 | 160.01 | 3.0 | 26,762 | 5.2 | 53.17 | ○ | × | × | 436 | |
| R6（前年度） | 10,729 | 5,364.5 | 5,364.5 | 302.42 | 447.28 | 157.94 | 3.0 | 27,385 | 5.1 | 52.22 | ○ | × | × | 662 | |
| R7（当該年度） | 10,738 | 5,369.0 | 5,369.0 | 303.69 | 460.26 | 167.11 | 3.0 | 27,926 | 5.0 | 44.97 | ○ | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。苫小牧市内で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | ・概ね適正なルート及び停留所の設定となっている。<br>・今後も利用状況、ニーズを踏まえて検討を行う。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | ・概ね適正であるが、今後もJR、フィーダー系統との乗り継ぎを考慮してダイヤ改正を行う。 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | ・左記の取組を継続して実施。<br>・イベントの開催への交通手段情報を「広報とまこまい」に掲載いただいた。 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | ・引き続きエコドライブの指導を行い、費用の削減に努めた。 |
| 路線の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | ・路線の維持は必要であると考えるので、今後も利用者の維持、回復に繋がる取組を関係自治体と協議を行っていく。 |

## 意見反映（利用者等の）

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br>【内　容】胆振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 【計画への反映等】<br>状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年4月） |
|---|---|
| 厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課 | 概ね計画通りに取り組みを実施した。今後も関係自治体と連携、協議を行っていく。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和7年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線③ | 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 | 経由地 | 日軽金 | | |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、苫小牧市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 厚真町学生の苫小牧までの通学<br>厚真町・安平町住民の苫小牧市内までの通院・通勤・通学 | 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| R5（前々年度） | 10,141 | 5,070.5 | 5,070.5 | 303.56 | 436.25 | 168.16 | 3.0 | 25,458 | 5.1 | 55.47 | × | × | × | | |
| R6（前年度） | 10,221 | 5,110.5 | 5,110.5 | 302.43 | 447.28 | 166.19 | 3.0 | 26,834 | 5.1 | 54.95 | ○ | × | × | | |
| R7（当該年度） | 6,812 | 3,406.0 | 3,406.0 | 303.68 | 460.26 | 167.25 | 3.0 | 26,101 | 4.8 | 44.92 | ○ | ○ | × | 3,407 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。苫小牧市内で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | ・概ね適正なルート及び停留所の設定となっている。<br>・今後も利用状況、ニーズを踏まえて検討を行う。 |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | ・概ね適正であるが、今後もJR、フィーダー系統との乗り継ぎを考慮してダイヤ改正を行う。 |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | ・左記の取組を継続して実施。<br>・イベントの開催への交通手段情報を「広報とまこまい」に掲載いただいた。 |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | ・引き続きエコドライブの指導を行い、費用の削減に努めた。 |
| 路線維持の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | ・路線の維持は必要であると考えるので、今後も利用者の維持、回復に繋がる取組を関係自治体と協議を行っていく。 |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | ■ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br>【内　容】担振地域公共交通活性化協議会<br>【実施日】令和6年6月4日<br>【対象者】関係自治体（室蘭、登別、伊達、豊浦、壮瞥、洞爺湖、白老、苫小牧、厚真、むかわ、安平）と道南バス、室蘭運輸支局、胆振総合振興局 | 【計画への反映等】<br>状況や課題は共有できており、今後も協力体制のもと継続して取り組む。 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（令和8年4月） |
|---|---|
| 厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課 | 概ね計画通りに取り組みを実施した。今後も関係自治体と連携、協議を行っていく。 |
| 【地域協議会コメント】（令和6年7月） | 【地域協議会による振り返り】（令和8年6月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 収支改善に向けて、引き続き利便性の向上に向けた取組や各種生産性向上の取組を、事業者と関係自治体が連携して進めていく必要がある。 |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（ 策　定 ・ 振り返り ）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭市内線② | 起点 | 東町ターミナル | 終点 | 資料館前 | 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 汐平団地 | | | 室蘭市・登別市学生の登別青嶺高校・明日中等学校までの通学、室蘭市・登別市住民の沿線（鷲別町・栄町・若山町）までの通勤などの交通手段確保のため | |
| 関係市町村 | 室蘭市、登別市 | | | | | | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 1,724 | 862.0 | 862.0 | 350.28 | 460.26 | 250.46 | 4.4 | 52,041 | 6.1 | 71.5 | × | × | ○ | 0 | |
| 8（前年度） | 901 | 450.5 | 450.5 | 360.68 | 457.38 | 281.28 | 4.4 | 56,132 | 7.5 | 77.9 | × | × | ○ | 0 | |
| 9（当該年度） | 1,286 | 643.0 | 643.0 | 385.27 | 479.80 | 297.62 | 3.7 | 39,175 | 5.1 | 77.2 | × | × | ○ | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し ・他系統との再編・統合等 | 室蘭・登別温泉線と競合しているほか、自社路線と複数競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR幌別駅を経由しており、競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>平成30年より、8月13～15日は土日祝ダイヤで運行している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| 収入の増加 | ③利用促進 ・住民理解 ・普及、PR ・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性 ・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、競合率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br><br>【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>室蘭市都市建設部都市政策推進課、登別市市民生活部市民協働グループ | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（策　定・振り返り）

## 路線の概要

| 系統名 | 登別・苫小牧線 | 起点 | 登別温泉 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 登別駅前 | | |
| 関係市町村 | 登別市、白老町、苫小牧市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 登別市・白老町住民の白老町立病院・苫小牧市立病院までの通院、登別市・白老町住民の登別温泉・虎杖浜・竹浦までの通勤、白老町住民の苫小牧市街までの買物などの交通手段確保のため | 苫小牧市樽前予約運行型バス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 27,307 | 13,653.5 | 13,653.5 | 350.28 | 460.26 | 210.66 | 4.9 | 157,550 | 11.3 | 60.1 | × | × | × | 0 | |
| 8（前年度） | 21,475 | 10,737.5 | 10,737.5 | 360.68 | 457.38 | 250.88 | 4.9 | 151,615 | 11.0 | 69.5 | × | × | × | 0 | |
| 9（当該年度） | 11,574 | 5,787.0 | 5,787.0 | 385.27 | 479.80 | 320.76 | 4.9 | 163,178 | 12.3 | 83.2 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 登別～苫小牧間はJRが平行している。<br>白老町コミュニティバス、自社路線と一部競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | バス乗車券と温泉入浴のセット乗車券を発売している。<br>白老で白老コミュニティバスと、錦岡で樽前予約運行型バスと接続が図られている。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市1町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 登別市市民生活部市民協働グループ、白老町政策推進課地域戦略推進グループ、苫小牧市 総合政策部 未来創造戦略室 | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月） | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |
| 事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（策　定・振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・洞爺湖線① | 起点 | 洞爺湖温泉 | 終点 | 室蘭駅前広場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 壮瞥役場前 | | |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、壮瞥町、伊達市（伊達市）、室蘭市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町・壮瞥町学生の壮瞥高校・伊達開来高校・伊達緑丘高校までの通学、壮瞥町・伊達市・室蘭市住民の伊達赤十字病院・聖ヶ丘病院・製鉄記念室蘭病院・日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院などの交通手段確保のため | 壮瞥町コミュニティタクシー |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 24,554 | 12,277.0 | 12,277.0 | 350.28 | 460.26 | 179.90 | 3.4 | 93,341 | 7.3 | 51.3 | ○ | × | × | 0 | |
| 8（前年度） | 25,194 | 12,597.0 | 12,597.0 | 360.68 | 457.38 | 194.79 | 3.4 | 108,146 | 9.3 | 54.0 | ○ | × | × | 0 | |
| 9（当該年度） | 23,561 | 11,780.5 | 11,780.5 | 385.27 | 479.80 | 233.48 | 3.4 | 108,794 | 9.6 | 60.6 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～長和間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線②、室蘭・伊達線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭、伊達）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市2町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br><br>【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>洞爺湖町総務部企画財政課、壮瞥町企画財政課、伊達市企画財政部企画財政課、室蘭市都市建設部都市政策課 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（（策　定）・振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・洞爺湖線② | 起点 | 洞爺湖温泉 | 終点 | 室蘭駅前広場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 虻田高校 | | |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、伊達市、室蘭市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町・伊達市学生の伊達開来高校・伊達緑丘高校までの通学、洞爺湖町・伊達市・室蘭市住民の伊達赤十字病院・聖ヶ丘病院・製鉄記念室蘭病院・日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院、洞爺湖町・伊達市住民の伊達市街までの買物などの交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>豊浦町コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 47,139 | 23,569.5 | 23,569.5 | 350.28 | 460.26 | 154.26 | 6.4 | 150,558 | 6.0 | 44.0 | ○ | × | × | 0 | |
| 8（前年度） | 48,466 | 24,233.0 | 24,233.0 | 360.68 | 457.38 | 162.84 | 6.4 | 178,118 | 7.7 | 45.1 | ○ | × | × | 0 | |
| 9（当該年度） | 49,352 | 24,676.0 | 24,676.0 | 385.27 | 479.80 | 218.15 | 6.4 | 240,632 | 10.5 | 56.6 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～長和間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線①、室蘭・伊達線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭、伊達、洞爺）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 2市1町にわたる運行であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br>【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 洞爺湖町総務部企画財政課、伊達市企画財政部企画財政課、室蘭市都市建設部都市政策推進課 | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（策　定・振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・伊達線 | 起点 | 広域センタービル | 終点 | 伊達駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 日赤前 | | |
| 関係市町村 | 室蘭市、伊達市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 室蘭市学生の伊達緑丘高校・伊達開来高校までの通学、室蘭市・伊達市住民の室蘭市立病院・日鋼記念病院・伊達赤十字病院までの通院、室蘭市・伊達市住民の沿線の通勤などの交通手段確保のため | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| 7（前々年度） | 13,651 | 6,825.5 | 6,825.5 | 350.28 | 460.26 | 202.39 | 3.0 | 70,573 | 8.4 | 57.7 | × | × | × | 0 | |
| 8（前年度） | 13,384 | 6,692.0 | 6,692.0 | 360.68 | 457.38 | 215.68 | 3.0 | 75,721 | 9.9 | 59.7 | × | × | × | 0 | |
| 9（当該年度） | 12,873 | 6,436.5 | 6,436.5 | 385.27 | 479.80 | 245.81 | 3.0 | 72,543 | 8.7 | 63.8 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～伊達間でJRと平行している。<br>室蘭・洞爺湖線①、室蘭・洞爺湖線②と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR駅（東室蘭）を経由しており、上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】<br><br>【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>室蘭市都市建設部都市政策推進課、伊達市企画財政部企画財政課 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（（策　定）・振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 日高沿岸線① | 起点 | 静内 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 上厚真・沼ノ端駅北口 | | |
| 関係市町村 | 新ひだか町（静内町）、新冠町、日高町（門別町）、むかわ町（鵡川町）、厚真町、苫小牧市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 沿線各町住民の苫小牧市内までの通勤・通学・通院・買物、日高町・新冠町から静内市街までの買物などの交通手段確保のため | 新冠町「厚賀太陽線」<br>日高町「広富線」「豊郷線」<br>厚真町「南部地区線」 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 52,349 | 26,174.5 | 26,174.5 | 350.28 | 460.26 | 153.69 | 5.1 | 176,748 | 9.0 | 43.8 | ○ | × | × | 0.0 | |
| 8（前年度） | 53,682 | 26,841.0 | 26,841.0 | 360.68 | 457.38 | 174.96 | 5.1 | 180,101 | 9.6 | 48.5 | ○ | × | × | 3,891.1 | |
| 9（当該年度） | 51,863 | 25,931.5 | 25,931.5 | 385.27 | 479.80 | 229.42 | 5.1 | 181,204 | 11.8 | 59.5 | × | × | × | 0.0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状（※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載） | 当該年度における取組の具体的内容（※ 取組主体を明記） | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）（※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載） |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | JR日高線（鵡川～様似間）廃止後の沿線住民の移動手段の確保と高校への通学・通院等の利便性を高めるため、経路・回数・時間等の見直しを実施。<br>主に国道235号線を運行しており、当該系統は経由地の異なる3系統を集約している。<br>一部の区間で、あつまバス、各町のコミュニティバス、自社路線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 自社路線と重複する区間は時間調整している<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している。 | 同上 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 沿線住民への周知及び利用促進についてバス事業者と沿線自治体とで協議し、具体的な利用促進策を実施する（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | JR日高線（鵡川～様似間）廃止後の代替交通として通勤・通学・通院などに利用されており、沿線住民の交通手段として維持する必要性がある。 | 2支庁に跨る広域幹線であり今まで以上に関係自治体との協議を行い、系統再編も含めた路線の維持方策について協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| むかわ町総務企画課、厚真町まちづくり推進課、苫小牧市 総合政策部 未来創造戦略室 | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（策　定・振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 起点 | 終点 | 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|---|---|---|
| 胆振線 | 伊達駅前 | 大滝本町東団地 | 国鉄廃止後の代替路線であり、伊達市大滝区・壮瞥町から壮瞥高校・伊達開来高校までの通学や伊達赤十字病院までの通院などの交通手段確保のため | 壮瞥町コミュニティタクシー |

| 事業者名 | 経由地 |
|---|---|
| 道南バス株式会社 | 日赤前、久保内 |

| 関係市町村 |
|---|
| 伊達市（伊達市、大滝村）、壮瞥町 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| 7（前々年度） | 18,205 | 9,102.5 | 9,102.5 | 350.28 | 460.26 | 123.83 | 5.2 | 47,278 | 4.0 | 35.3 | ○ | ○ | × | 21,982.7 | |
| 8（前年度） | 14,041 | 7,020.5 | 7,020.5 | 360.68 | 457.38 | 118.95 | 5.2 | 41,631 | 3.6 | 32.9 | ○ | ○ | × | 22,207.6 | |
| 9（当該年度） | 19,952 | 9,976.0 | 9,976.0 | 385.27 | 479.80 | 129.76 | 5.2 | 54,385 | 4.2 | 33.6 | ○ | ○ | × | 18,274.6 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 国鉄廃止後の代替バス路線であり、旧国鉄線に沿った国道453号を運行している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは重複しないよう時間調整している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 国鉄胆振線廃止後の代替路線であり、沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、収支率カット及びみなしカットの状況にある。 | 収支率カット及びみなしカット発生しているものの自治体から支援を受けており、関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線維持に努める。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治体担当者と道南バス | |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 伊達市企画財政部企画財政課、壮瞥町企画財政課 | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（（策　定）・振り返り　）

## 路線の概要

| 系　統　名 | 洞爺湖温泉線 |
|---|---|
| 事 業 者 名 | 道南バス株式会社 |
| 関係市町村 | 洞爺湖町（虻田町）、壮瞥町、豊浦町 |

| 起　　点 | 東町 | 終　　点 | 洞爺駅前 |
|---|---|---|---|
| 経　由　地 | 洞爺湖温泉 | | |

| 路　線　の　維　持　目　的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町住民の洞爺湖温泉街までの通勤、協会病院までの通院、虻田高校までの通学などの交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>豊浦町コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 2,848 | 1,424.0 | 1,424.0 | 350.28 | 460.26 | 127.43 | 3.9 | 17,333 | 2.7 | 36.3 | ○ | ○ | × | 3,922.0 | |
| 8（前年度） | 6,544 | 3,272.0 | 3,272.0 | 360.68 | 457.38 | 176.86 | 3.9 | 43,259 | 4.5 | 49.0 | ○ | ○ | × | 3,091.3 | |
| 9（当該年度） | 3,905 | 1,952.5 | 1,952.5 | 385.27 | 479.80 | 230.70 | 3.9 | 20,481 | 5.7 | 59.8 | × | × | × | 0.0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭・洞爺湖線①、洞爺湖温泉線②と競合している。 | 利用動向と各停留所の乗降の実態把握に努める（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 利用動向の把握に努め、改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性がある。 | 令和7年度より自治体から支援を受けており、関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線維持に努める。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | □　生活交通確保に係る協議会等<br>□　アンケート<br>□　ヒアリング、公聴会<br>□　パブリックコメント<br>□　市町村等が行う会議等<br>□　その他 | 【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 壮瞥町企画財政課、洞爺湖町総務部企画財政課、豊浦町政策財政課 | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（策　定・振り返り）

## 路線の概要

| 系統名 | 室蘭・登別温泉線 | 起点 | 広域センタービル | 終点 | 登別温泉 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | 道南バス株式会社 | 経由地 | 汐平団地 | | |
| 関係市町村 | 室蘭市、登別市 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 登別市学生の室蘭清水丘高校までの通学、登別市・室蘭市住民の沿線の通勤、登別市住民の日鋼記念病院・室蘭市立病院までの通院などの交通手段確保のため | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7（前々年度） | 13,125 | 6,562.5 | 6,562.5 | 350.28 | 460.26 | 226.98 | 8.2 | 188,833 | 9.4 | 64.7 | × | × | ○ | 0 | |
| 8（前年度） | 5,531 | 2,765.5 | 2,765.5 | 360.68 | 457.38 | 285.11 | 8.2 | 234,259 | 11.5 | 79.0 | × | × | ○ | 0 | |
| 9（当該年度） | 801 | 400.5 | 400.5 | 385.27 | 479.80 | 374.32 | 8.2 | 275,042 | 13.2 | 97.1 | × | × | ○ | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭～登別間はJRが平行している。<br>室蘭市内線②と競合しているほか、室蘭～東室蘭間や登別～登別温泉間で自社路線と複数競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 乗継ぎを考慮してJR登別駅を経由しており、競合路線とは時間調整している。<br>バス乗車券と温泉入浴のセット乗車券を発売している。<br>・4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として維持の必要性があるが、競合率カットの状況にある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|
| | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | |

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 室蘭市都市建設部都市政策推進課、登別市市民生活部市民協働グループ | |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（（策　定）・振り返り　）

## 路線の概要

| 系　統　名 | 洞爺湖温泉線② | 起　点 | 昭和新山 | 終　点 | 洞爺駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事 業 者 名 | 道南バス株式会社 | 経　由　地 | 虻田高校・協会病院前 | | |
| 関係市町村 | 壮瞥町、洞爺湖町（虻田町） | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 洞爺湖町住民の洞爺湖温泉街までの通勤、洞爺湖温泉から虻田高校までの通学などの交通手段確保のため | 洞爺湖町虻田地区コミュニティバス<br>豊浦町コミュニティバス |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| 7（前々年度） | 5,813 | 2,906.5 | 2,906.5 | 350.28 | 460.26 | 115.28 | 4.9 | 29,678 | 3.4 | 32.9 | ○ | ○ | × | 0 | |
| 8（前年度） | 9,776 | 4,888.0 | 4,888.0 | 360.68 | 457.38 | 165.73 | 4.9 | 47,041 | 5.0 | 45.9 | ○ | × | × | 0 | |
| 9（当該年度） | 5,571 | 2,785.5 | 2,785.5 | 385.27 | 479.80 | 285.29 | 4.9 | 72,691 | 9.7 | 74.0 | × | × | × | 0 | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 室蘭・洞爺湖線①、洞爺湖温泉線と競合している。 | 利用動向及び各停留所の乗降の実態把握に努め改善について検討していく（道南バス） | |
| 収入の増加 | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 上記競合路線とは時間調整している。<br>沿線の学校、病院、施設等の近くにバス停留所を設置している。<br>4市（室蘭、苫小牧、登別、伊達）連携支援によりバスロケーションシステム「バスキタ」を導入している | 同上 | |
| 収入の増加 | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | バス車内での運賃の支払いにQRコード決済（PayPay、WeChatPay等）を実施している。<br>ホームページに時刻を掲載しているほか時刻表の配布等を実施し啓発に取り組んでいる。<br>自治体ホームページと当社ホームページとのリンクにより啓発に取り組んでいる。 | 継続して啓発に取り組んでいく（道南バス、関係自治体） | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | エコドライブの推進、指導を実施し燃料経費の削減に取り組んでいる。 | 現在の取り組みを継続して実施していく（道南バス） | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | 沿線住民にとって通勤・通学・通院等で利用するための交通手段として、また観光需要を取り込むためにも維持の必要性がある。 | 関係自治体との協議を今まで以上に行い、路線の維持方策について、協議する。（道南バス、関係自治体） | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □　生活交通確保に係る協議会等<br>□　アンケート<br>□　ヒアリング、公聴会<br>□　パブリックコメント<br>□　市町村等が行う会議等<br>□　その他 | 【内容・実施日・対象者】<br><br>【内　容】関係自治体担当者との意見交換<br>【実施日】令和9年中<br>【対象者】各自治地体担当者と道南バス | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br><br>壮瞥町企画財政課、洞爺湖町総務部企画財政課 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【地域協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 千歳線 |
|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、千歳市 |

| 起点 | 厚真 | 終点 | 千歳駅前 |
|---|---|---|---|
| 経由地 | 早来 | | |

| 路線の維持目的 |
|---|
| 厚真町学生のJR早来駅までの通学・厚真町・安平町住民の千歳市内までの通院・通勤・買物 |

| 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|
| 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R7（前々年度） | 9,010 | 4,505 | 4,505 | 303.69 | 460.26 | 191.28 | 3.0 | 28,575 | 5.0 | 62.98 | × | × | × | | |
| R8（前年度） | 9,075 | 4537.5 | 4537.5 | 306.79 | 457.38 | 193.57 | 3.0 | 28,816 | 5.1 | 63.09 | × | × | × | | |
| R9（当該年度） | 9,223 | 4611.5 | 4611.5 | 313.93 | 479.80 | 197.20 | 3.0 | 29,348 | 5.2 | 62.81 | × | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 厚真⇔早来駅間は他系統と競合しているが、幹線道路が一本であり運行便数も少ないので、利用者の利便性確保のためにはやむを得ない。千歳市内で他社と競合しているが維持目的からもやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントへの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・PHにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | |
| 路線の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | |

## 利用者等の意見反映

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>千歳市企画部交通政策課交通政策係 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線① | 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅 | 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 | 経由地 | 上厚真 | | | 厚真町学生の苫小牧市までの通学<br>厚真町住民の苫小牧市内、通院・通勤・買物 | 厚真町運行3系統 |
| 関係市町村 | 厚真町、苫小牧市 | | | | | | |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R7（前々年度） | 8,162 | 4,081 | 4,081 | 303.69 | 460.26 | 148.13 | 3.0 | 24,412 | 4.9 | 48.77 | ○ | ○ | × | 5,774 | |
| R8（前年度） | 12,366 | 6,183 | 6,183 | 306.79 | 457.38 | 144.95 | 3.0 | 24,768 | 5.1 | 47.24 | ○ | × | × | 2,130 | |
| R9（当該年度） | 12,654 | 6,327 | 6,327 | 313.93 | 479.80 | 147.45 | 3.0 | 24,865 | 5.2 | 46.96 | ○ | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状 ※運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容 ※取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定） ※未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。<br>上厚真⇔苫小牧駅前間で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □　生活交通確保に係る協議会等<br>□　アンケート<br>□　ヒアリング、公聴会<br>□　パブリックコメント<br>□　市町村等が行う会議等<br>□　その他 | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>厚真町まちづくり推進課　苫小牧市総合政策部未来創造戦略室 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（ 策定 ・ 振り返り ）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線② | 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 | 経由地 | 緑小 | | |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、苫小牧市内 | | | | |

| 路線の維持目的 | 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|---|
| 厚真町学生の苫小牧までの通学<br>厚真町・安平町住民の苫小牧市内までの通院・通勤・通学 | 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | （国） | （道） | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R7（前々年度） | 10,738 | 5,369.0 | 5,369.0 | 303.68 | 460.26 | 167.11 | 3.0 | 27,926 | 5.0 | 44.97 | ○ | × | × | | |
| R8（前年度） | 10,854 | 5,427 | 5,427 | 306.79 | 457.38 | 166.50 | 3.0 | 27,429 | 5.1 | 54.27 | ○ | × | × | 175 | |
| R9（当該年度） | 11,106 | 5,553 | 5,553 | 313.93 | 479.80 | 170.21 | 3.0 | 27,509 | 5.1 | 54.21 | ○ | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。苫小牧市内で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | |
| 路線の必要性維持 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | |

## 意見反映利用者等の

| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |
|---|---|---|---|

## 検討状況

| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>苫小牧市総合政策部未来創造戦略室 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
|---|---|
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【協議会による振り返り】（　年　月） |

別紙様式1－1

# 令和9年度　地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）に係る収支改善計画　報告表　（　策　定　・　振り返り　）

## 路線の概要

| 系統名 | 苫小牧線③ |
|---|---|
| 事業者名 | あつまバス株式会社 |
| 関係市町村 | 厚真町、安平町、苫小牧市 |

| 起点 | 厚真 | 終点 | 苫小牧駅前 |
|---|---|---|---|
| 経由地 | 日軽金 | | |

| 路線の維持目的 |
|---|
| 厚真町学生の苫小牧までの通学<br>厚真町・安平町住民の苫小牧市内までの通院・通勤・通学 |

| 関係する地域内フィーダー系統 |
|---|
| 厚真町　運行3系統<br>安平町　運行1系統 |

## 路線の運行状況（補助実績等）

| 補助年度 | 補助金額（千円） | | | キロ当たり経常費用（円） | 地域標準経常費用（円） | キロ当たり経常収益（円） | 1日当たり運行回数（回） | 輸送人員（人） | 平均乗車密度（人） | 経常収支率（%） | 算定基準の該当（○×） | | | 市町村負担額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （国） | （道） | | | | | | | | 収支率 | 見なし回数 | 競合率 | | |
| R7（前々年度） | 6,812 | 3,406.0 | 3,406.0 | 303.68 | 460.26 | 167.25 | 3.0 | 26,101 | 4.8 | 44.92 | ○ | ○ | × | 3,407 | |
| R8（前年度） | 10,062 | 5,031 | 5,031 | 306.79 | 457.38 | 172.44 | 3.0 | 26,779 | 5.2 | 56.20 | × | × | × | | |
| R9（当該年度） | 9,914 | 4,957 | 4,957 | 313.93 | 479.80 | 177.46 | 3.0 | 27,557 | 5.2 | 56.52 | × | × | × | | |

## 収支改善に向けた検討内容

| 項目 | | 現状<br>※ 運行状況に基づく現状分析、取組の可能性を記載 | 当該年度における取組の具体的内容<br>※ 取組主体を明記 | 取組結果（必要に応じ翌年度の取組予定）<br>※ 未実施の場合、理由と今後の対応方針を記載 |
|---|---|---|---|---|
| 収入の増加 | ①運行ルートの見直し<br>・他系統との再編・統合等 | 維持目的に合ったルート(学校・病院・商業施設)を経由している。苫小牧市内で他社と競合しているが維持目的からも利用者の利便性を考慮するとやむを得ない。 | ルートについては、維持目的に概ね即したルートに設定されている。今後も関係自治体と協力して住民・利用者の要望を収集しニーズにあった見直しを図る。 | |
| | ②運行方法の改善<br>・運行回数<br>・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯、バス停)等 | 利用者の利便性確保のため現在の運行回数の維持が必要である。<br>JR乗継に配慮している。<br>バス停留所は概ね利用者のニーズに合った場所に設置している。 | 運行時間の要望を、お客様から聞き取り調査等により把握し利用者ニーズに合わせる。<br>協議会、乗務員による聞き取りを行い停留所設置場所の要望を把握し改善を図る。 | |
| | ③利用促進<br>・住民理解<br>・普及、PR<br>・助成制度　等 | ・厚真町が高齢者に助成券を発行<br>・安平町が当該系統にも共用可能な共通回数乗車券を交付<br>・車内に国庫補助路線であることを掲示し、理解を図っている。<br>・沿線住民に時刻表の配布を行っている。<br>・厚真町・安平町のホームページに時刻表・路線図を掲載して頂いている。<br>・沿線でのイベントの移動手段としてのPRを行う。 | ・引き続き、車内掲示により住民の理解と利用の促進を図る。<br>・時刻表の配布を行う。<br>・NAVITIMEにバス運行情報を提供。<br>・沿線で行われるイベントのポスター・HPにバス利用の案内、時刻表の掲載をお願いする。 | |
| 費用の削減 | ④削減・節約・効率化等 | デジタルタコグラフの活用によりエコ運転の促進(アイドリングの停止、暖気運転の短縮、急発進の防止)と指導を実施し燃料経費の削減を図る。 | 現在の取り組みを継続する。 | |
| 路線の必要性 | ⑤輸送手段の適合性<br>・バス運行及び他の輸送手段の検討等 | ・一定の利用者が確保されていて複数の市町村に跨り運行しているのでバス運行での輸送が適正である。 | 今後も関係市町村と路線バス維持確保ができるように協議する。 | |

## 利用者等の意見反映

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎計画作成に当たり実施した市町村、事業者及び協議会（会議）等による意見反映の方法（複数市町村の取組を含む） | □ 生活交通確保に係る協議会等<br>□ アンケート<br>□ ヒアリング、公聴会<br>□ パブリックコメント<br>□ 市町村等が行う会議等<br>□ その他 | 【内容・実施日・対象者】 | 【計画への反映等】 |

## 検討状況

| | |
|---|---|
| 【計画策定に関わった市町村名及び担当部署名】<br>厚真町まちづくり推進課　安平町政策推進課政策推進グループ<br>苫小牧市総合政策部未来創造戦略室 | 【事業者及び市町村による振り返り】（　年　月） |
| 【地域協議会コメント】（令和8年6月）<br>事業者と関係自治体が連携して、利便性向上をはじめとする生産性向上の取組を進めることで、利用客の増加や費用削減等により収支の改善に努め、路線の維持を図ること。 | 【協議会による振り返り】（　年　月） |

別　紙　「生産性向上の取組について」

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | 令和８年度計画内容（当初） | | 【中間点検】令和８年度計画内容（原則、令和８年３月末時点） | | | 令和９年度計画内容 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 効果目標の達成状況 | 備考 | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 令和７年度の収支率（実績値） | 中間点検時点（原則、令和８年３月末時点）での収支率 | 令和９年度計画の収支率 | |
| R9 | 1 | 室蘭市内線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 東町3-1ｵﾙ | 汐平団地 | 資料館前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり゛２６イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2026年7月開催時）<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　22,565,446円<br>・経常費用　25,659,484円<br>・収支率　▲3,094,038円<br>・収支率　87.9%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　22,812,526円（約247千円増加）<br>・経常費用　25,659,484円（増減なし）<br>・経常収支　▲2,846,958円<br>・収支率　88.9%（収支改善率1.0%） | 【R7見込額】R8.3月末時点<br><br>・経常収益　8,436,035円<br>・経常費用　15,390,067円<br>・経常収支　▲6,944,032円<br>・収支率　54.8% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R8実績）」に変更している<br>・中間点検では86実績と85、4-86.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり゛２７イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2027年7月開催時）<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　12,263,461円<br>・経常費用　18,080,087円<br>・経常収支　▲5,816,626円<br>・収支率　67.8%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　12,439,781円（約176千円増加）<br>・経常費用　18,080,087円（増減なし）<br>・経常収支　▲5,640,306円<br>・収支率　68.8%（収支改善率1.0%） | 67.8% | 54.8% | 68.8% | |
| R9 | 2 | 登別・苫小牧線 | 東胆振広域市町村圏 | 苫小牧市 | 登別温泉 | 登別駅前 | 苫小牧駅前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり゛２６イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2026年7月開催時）<br><br>【運南バス・苫小牧市】<br>・苫小牧市で開催される「たるまえサンフェスティバル」会場においてバスの乗車体験、乗り方教室を実施。（2026年9月開催時）<br>・市内の学校、幼稚園と協働で2026年7月には「七夕」、2026年12月には「クリスマス」、2027年3月には「ひなまつり」をテーマにした装飾を行い、バス利用者の満足度向上を図る。<br><br>【苫小牧市】<br>・2026年8月の「凍まつり」、9月の「たるまえサンフェスティバル」において、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣駅や近隣市町村に掲出（12月から2月に予定されている苫小牧駅前イルミネーションでも同様に実施予定）。<br>・現在の運南バス時刻表掲載路線図の利便性向上のため、代わりとなるバスマップを作成・配布。<br><br>【白老町】<br>・路線バスの時刻表を、利用者が手に入りやすくするため、役場内の住民窓口に配置。<br>・コミュニティバスを含め、町内を運行する地域公共交通の路線・ダイヤを１冊にまとめた「ガイドブック」を発行し、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>・コミュニティバスやタクシーに加え、運南バスでも利用可能な「地域公共交通共通回数券」を発行し、利用促進を図る。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　55,687,335円<br>・経常費用　73,651,900円<br>・経常収支　▲17,964,565円<br>・収支率　75.6%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　56,422,335円（約735千円増加）<br>・経常費用　73,651,900円（増減なし）<br>・経常収支　▲17,229,565円<br>・収支率　76.6%（収支改善率1.0%） | 【R7見込額】R8.3月末時点<br><br>・経常収益　85,018,945円<br>・経常費用　76,932,007円<br>・経常収支　8,086,938円<br>・収支率　110.5% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R8実績）」に変更している<br>・中間点検では86実績と85、4-86.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり゛２７イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2027年7月開催時）<br><br>【運南バス・苫小牧市】<br>・苫小牧市で開催される「たるまえサンフェスティバル」会場においてバスの乗車体験、乗り方教室を実施。（2027年9月開催時）<br>・市内の学校、幼稚園と協働で2027年7月には「七夕」、2027年12月には「クリスマス」、2028年3月には「ひなまつり」、をテーマにした装飾を行い、バス利用者の満足度向上を図る。<br><br>【苫小牧市】<br>・2027年8月の「凍まつり」、9月の「たるまえサンフェスティバル」において、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣駅や近隣市町村に掲出（12月から2月に予定されている苫小牧駅前イルミネーションでも同様に実施予定）。<br>・現在の運南バス時刻表掲載路線図の利便性向上のため、代わりとなるバスマップを作成・配布。<br><br>【白老町】<br>・路線バスの時刻表を、利用者が手に入りやすくするため、役場内の住民窓口に配置。<br>・コミュニティバスを含め、町内を運行する地域公共交通の路線・ダイヤを１冊にまとめた「ガイドブック」を発行し、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>・コミュニティバスやタクシーに加え、運南バスでも利用可能な「地域公共交通共通回数券」を発行し、利用促進を図る。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　75,297,976円<br>・経常費用　82,765,662円<br>・経常収支　▲7,467,686円<br>・収支率　90.9%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　76,065,976円（約768千円増加）<br>・経常費用　82,765,662円（増減なし）<br>・経常収支　▲6,699,686円<br>・収支率　91.9%（収支改善率1.0%） | 90.9% | 110.5% | 91.9% | |
| R9 | 3 | 室蘭・洞爺湖線① | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 壮瞥役場前 | 室蘭駅前広場 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　52,287,965円<br>・経常費用　84,046,442円<br>・経常収支　▲31,758,477円<br>・収支率　62.2%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　53,123,165円（約835千円増加）<br>・経常費用　84,046,442円<br>・経常収支　▲30,923,277円<br>・収支率　63.2% | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br><br>・経常収益　34,167,939円<br>・経常費用　65,107,783円<br>・経常収支　▲30,939,844円<br>・収支率　52.4% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R8実績）」に変更している<br>・中間点検では86実績と85、4-86.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　43,184,958円<br>・経常費用　64,958,253円<br>・経常収支　▲21,773,295円<br>・収支率　66.4%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　43,788,158円（約603千円増加）<br>・経常費用　64,958,253円<br>・経常収支　▲21,170,095円<br>・収支率　67.4% | 66.4% | 52.4% | 67.4% | |
| R9 | 4 | 室蘭・洞爺湖線② | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>虻田町 | 洞爺湖温泉 | 虻田高校 | 室蘭駅前広場 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　58,003,788円<br>・経常費用　113,298,963円<br>・経常収支　▲55,295,175円<br>・収支率　51.1%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　59,030,388円（約1,026千円増加）<br>・経常費用　113,298,963円（増減なし）<br>・経常収支　▲54,268,575円<br>・収支率　52.1%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br><br>・経常収益　96,179,828円<br>・経常費用　123,866,546円<br>・経常収支　▲27,686,718円<br>・収支率　77.6% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R8実績）」に変更している<br>・中間点検では86実績と85、4-86.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンク又は路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　91,096,630円<br>・経常費用　124,979,572円<br>・経常収支　▲33,882,936円<br>・収支率　72.8%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　92,239,236円（約1,143千円増加）<br>・経常費用　124,979,572円（増減なし）<br>・経常収支　▲32,740,336円<br>・収支率　73.8%（収支改善率1.0%） | 72.8% | 77.6% | 73.8% | |

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | 令和８年度計画内容（当初）<br>生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 令和８年度計画内容（当初）<br>生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 【中間点検】令和８年度計画内容（原則、令和８年３月末時点）<br>生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 【中間点検】令和８年度計画内容（原則、令和８年３月末時点）<br>効果目標の達成状況 | 【中間点検】令和８年度計画内容（原則、令和８年３月末時点）<br>備考 | 令和９年度計画内容<br>生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 令和９年度計画内容<br>生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 令和７年度の収支率（実績値） | 中間点検時点（原則、令和５年３月末時点）での収支率 | 令和９年度計画の収支率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R9 | 5 | 室蘭・伊達線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市<br>伊達市 | 広域センタービル | 日赤前 | 伊達駅前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　27,458,923円<br>・経常費用　40,910,026円<br>・経常収支　▲13,451,103円<br>・収支率　67.1%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　27,864,223円（約405千円増加）<br>・経常費用　40,910,026円（増減なし）<br>・経常収支　▲13,045,803円<br>・収支率　68.1%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　21,544,127円<br>・経常費用　38,717,877円<br>・経常収支　▲17,173,750円<br>・収支率　55.6% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R6実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【伊達市・運南バス】<br>・市内を運行する路線バスのマップについて市ホームページ及びフェイスブックへの掲載は継続実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　24,975,802円<br>・経常費用　38,690,152円<br>・経常収支　▲13,714,350円<br>・収支率　64.5%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　25,374,802円（約399千円増加）<br>・経常費用　38,690,152円（増減なし）<br>・経常収支　▲13,315,350円<br>・収支率　65.5%（収支改善率1.0%） | 64.5% | 55.6% | 65.5% | |
| R9 | 6 | 日高広域市町村圏<br>東胆振広域市町村圏 | 日高広域市町村圏<br>東胆振広域市町村圏 | 静内町<br>苫小牧市 | 静内 | 富川ターミナルとみくる・上厚真・沼ノ端駅北口 | 苫小牧駅前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【関係市町村共通】<br>・運南バス及び各市町、東胆振定住自立圏、nittan地域戦略会議が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【運南バス・苫小牧市】<br>・苫小牧市で開催される「たるまえサンフェスティバル」会場においてバスの乗車体験、乗り方教室を実施。（2026年9月開催時）<br>・市内の学校、幼稚園と協働で2026年7月には「七夕」、2026年12月には「クリスマス」、2027年3月には「ひなまつり」をテーマにした装飾を行い、バス利用者の満足度向上を図る。<br><br>【苫小牧市】<br>・2026年8月の「港まつり」、9月の「たるまえサンフェスティバル」において、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣駅や近隣市町村に掲出（12月から2月に予定されている苫小牧駅前イルミネーションでも同様に実施予定）。<br>・現在の運南バス時刻表掲載路線図の利便性向上のため、代わりとなるバスマップを作成・配布。<br><br>【厚真町】<br>・2026年7月の「田舎まつり」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br><br>【むかわ町】<br>・バス利用者との利用促進に関する意見交換会を実施。<br>・2026年8月の「むかわグルメフェスタ」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　66,743,300円<br>・経常費用　126,107,391円<br>・経常収支　▲59,364,091円<br>・収支率　52.9%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　67,979,400円（約1,236千円増加）<br>・経常費用　126,107,391円（増減なし）<br>・経常収支　▲58,127,991円<br>・収支率　53.9%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【関係市町村共通】<br>・運南バス及び各市町、東胆振定住自立圏、nittan地域戦略会議が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【運南バス・苫小牧市】<br>・苫小牧市で開催される「たるまえサンフェスティバル」会場において、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣駅や近隣市町村に掲出（12月から2月に予定されている苫小牧駅前イルミネーションでも同様に実施予定）。<br>・現在の運南バス時刻表掲載路線図の利便性向上のため、代わりとなるバスマップを作成・配布。<br><br>【厚真町】<br>・2026年7月の「田舎まつり」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br><br>【むかわ町】<br>・バス利用者との利用促進に関する意見交換会を実施。<br>・2026年8月の「むかわグルメフェスタ」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　97,725,704円<br>・経常費用　138,853,598円<br>・経常収支　▲41,127,894円<br>・収支率　70.3% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R6実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【関係市町村共通】<br>・運南バス及び各市町、東胆振定住自立圏、nittan地域戦略会議が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【運南バス・苫小牧市】<br>・苫小牧市で開催される「たるまえサンフェスティバル」会場においてバスの乗車体験、乗り方教室を実施。（2027年9月開催時）<br>・市内の学校、幼稚園と協働で2027年7月には「七夕」、2027年12月には「クリスマス」、2028年3月には「ひなまつり」、をテーマにした装飾を行い、バス利用者の満足度向上を図る。<br><br>【苫小牧市】<br>・2026年8月の「港まつり」、9月の「たるまえサンフェスティバル」において、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣駅や近隣市町村に掲出（12月から2月に予定されている苫小牧駅前イルミネーションでも同様に実施予定）。<br>・現在の運南バス時刻表掲載路線図の利便性向上のため、代わりとなるバスマップを作成・配布。<br><br>【厚真町】<br>・2026年7月の「田舎まつり」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br><br>【むかわ町】<br>・バス利用者との利用促進に関する意見交換会を実施。<br>・2026年8月の「むかわグルメフェスタ」にあわせて、公共交通の利用促進を啓発するポスターを近隣市町村に掲出。<br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　99,893,391円<br>・経常費用　138,754,946円<br>・経常収支　▲38,861,555円<br>・収支率　71.9%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　101,162,391円（約1,269千円増加）<br>・経常費用　138,754,946円（増減なし）<br>・経常収支　▲37,592,555円<br>・収支率　72.9%（収支改善率1.0%） | 71.9% | 70.3% | 72.9% | |
| R9 | 7 | 胆振線 | 西胆振広域市町村圏 | 伊達市 | 伊達駅前 | 日赤前・久保内 | 大滝本町東団地 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　17,134,850円<br>・経常費用　56,695,890円<br>・経常収支　▲39,561,040円<br>・収支率　30.2%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　17,689,150円（約554千円増加）<br>・経常費用　56,695,890円（増減なし）<br>・経常収支　▲39,006,740円<br>・収支率　31.2%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　26,314,131円<br>・経常費用　62,897,125円<br>・経常収支　▲36,582,994円<br>・収支率　41.8% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R6実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　22,725,737円<br>・経常費用　62,913,483円<br>・経常収支　▲40,187,746円<br>・収支率　36.1%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　23,346,737円（約621千円増加）<br>・経常費用　62,913,483円（増減なし）<br>・経常収支　▲39,566,746円<br>・収支率　37.1%（収支改善率1.0%） | 36.1% | 41.8% | 37.1% | |
| R9 | 8 | 洞爺湖温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 東町 | 洞爺湖温泉 | 洞爺駅前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　9,333,855円<br>・経常費用　13,496,101円<br>・経常収支　▲4,162,246円<br>・収支率　69.1%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　9,465,155円（約131千円増加）<br>・経常費用　13,496,101円（増減なし）<br>・経常収支　▲4,030,946円<br>・収支率　70.1%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　15,922,438円<br>・経常費用　20,653,393円<br>・経常収支　▲4,730,955円<br>・収支率　77.0% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R6実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、運南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　14,770,351円<br>・経常費用　22,931,288円<br>・経常収支　▲8,160,937円<br>・収支率　64.4%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　15,000,451円（約230千円増加）<br>・経常費用　22,931,288円（増減なし）<br>・経常収支　▲7,930,837円<br>・収支率　65.4%（収支改善率1.0%） | 64.4% | 77.0% | 65.4% | |
| R9 | 9 | 室蘭・登別温泉線 | 西胆振広域市町村圏 | 室蘭市 | 広域センタービル | 沙平団地 | 登別温泉 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり」２６イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2026年7月開催時）<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　74,890,455円<br>・経常費用　77,471,488円<br>・経常収支　▲2,581,033円<br>・収支率　96.6%<br><br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　75,619,155円（約728千円増加）<br>・経常費用　77,471,488円（増減なし）<br>・経常収支　▲1,852,333円<br>・収支率　97.6%（収支改善率1.0%） | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり」２６イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2026年7月開催時）<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　110,067,170円<br>・経常費用　91,856,563円<br>・経常収支　18,210,607円<br>・収支率　119.8% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R6実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合をR6実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと運南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・運南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br><br>【室蘭市・運南バス】<br>・小学生や高齢者に対象を絞らず、幅広い年代を対象に商業施設においてバスの乗り方などの体験乗車会（「バスの乗り方教室」）を実施。<br><br>【登別市・運南バス】<br>・登別市で開催される「リサイクルまつり」２７イン登別・白老」会場に運南バスの車両を駐留して、バスの乗り方などの体験試乗会の実施（2027年7月開催時）<br><br>（利便性向上）<br>【運南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br><br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　105,884,723円<br>・経常費用　93,038,041円<br>・経常収支　12,846,682円<br>・収支率　113.8%<br><br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　106,812,923円（約928千円増加）<br>・経常費用　93,038,041円（増減なし）<br>・経常収支　13,774,882円<br>・収支率　114.8%（収支改善率1.0%） | 113.8% | 119.8% | 114.8% | |

| 年度 | 番号 | 系統名 | 広域行政圏名 | 中心市町村名 | 起点 | 経由地 | 終点 | 令和８年度計画内容（当初） | | 【中間点検】令和８年度計画内容（原則、令和８年３月末時点） | | | 令和９年度計画内容 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 効果目標の達成状況 | 備考 | 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、実施時期 | 生産性向上の取組に係る定量的な効果目標 | 令和７年度の収支率（実績値） | 中間点検時点（原則、令和５年３月末時点）での収支率 | 令和９年度計画の収支率 | |
| R9 | 10 | 洞爺湖温泉線② | 西胆振広域市町村圏 | 虻田町 | 昭和新山 | 虻田高校 | 洞爺駅前 | （利用促進）<br>・各町ＨＰと道南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・道南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、道南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、道南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>（利便性向上）<br>【道南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br>【基準年：令和7年3月末時点（令和６年度実績）】<br>・経常収益　10,572,733円<br>・経常費用　16,177,799円<br>・経常収支　▲5,605,066円<br>・収支率　65.3%<br>【取組目標年：令和８補助年度】<br>・経常収益　10,726,733円（約154千円増加）<br>・経常費用　16,177,799円（増減なし）<br>・経常収支　▲5,451,066円<br>・収支率　66.3%（収支改善率1.0%） | 【R7見込額】R8.3月末時点<br>・経常収益　35,522,982円<br>・経常費用　23,372,287円<br>・経常収支　12,150,695円<br>・収支率　151.9% | ・費用額の算出に用いるキロ当たり単価を計画策定時の単価からより実態に即した「事業者単価（R8実績）」に変更している<br>・中間点検ではR6実績とR5.4-R6.3との輸送人員を比較しその増減割合を8%実績に乗じて収益を算出している | （利用促進）<br>・各町ＨＰと道南バスＨＰの相互リンクは路線図・時刻表の掲載は継続実施。<br>・道南バス及び各市町が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施。<br>【壮瞥町】<br>・コミュニティタクシーの利用について周知する際に、道南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>【洞爺湖町】<br>・コミュニティバスの利用について周知する際に、道南バスとの接続及び利用促進に関するPRを実施。<br>（利便性向上）<br>【道南バス】<br>・バス停留所待合室の現状確認を定期的に行い、修繕や清掃の実施・検討。 | （利用促進）<br>公共交通のＰＲ等の取組強化による増収を見込む。<br>【基準年：令和8年3月末時点（令和７年度実績）】<br>・経常収益　29,041,025円<br>・経常費用　26,966,552円<br>・経常収支　2,074,473円<br>・収支率　107.6%<br>【取組目標年：令和９補助年度】<br>・経常収益　29,286,025円（約245千円増加）<br>・経常費用　26,966,552円（増減なし）<br>・経常収支　2,319,473円<br>・収支率　108.6%（収支改善率1.0%） | 107.6% | 151.9% | 108.6% | |
| R9 | 11 | 札幌ふるさと広域市町村圏 | 千歳市 | 千歳市 | 厚真 | 早来 | 千歳駅前 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和6年補助年度】<br>・経常収益　15,740千円<br>・経常費用　24,908千円<br>・経常収支　▲9,168千円<br>・収支率　63.1%<br>【取組目標年：令和8補助年度】<br>・経常収益　15,965千円（約245千円増加）<br>・経常費用　24,908千円（増減なし）<br>・経常収支　▲8,695千円<br>・収支率　64.1%（収支改善率1.0%） | 利用促進<br>各市町発行の広報誌面を利用した利用促進に関するPRを継続実施<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクと時刻表と路線図の掲載を継続実施<br>・３月に時刻表の新聞折り込みを実施<br>・町内の公共交通総合時刻表(時刻表・路線図・利用ガイド)の全戸配布を年１回継続実施(取組主体:厚真町・安平町)<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動の取組については継続実施 | 【令和7年9月末時点】<br>・経常収益　16,182千円<br>・経常費用　25,968千円<br>・経常収支　▲9,786千円<br>・収支率　62.3% | 令和7年度の事業決算の処理が終わっていないため、令和6年9月末時点の実績値を使用。 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和7年補助年度】<br>・経常収益　16,182千円<br>・経常費用　25,968千円<br>・経常収支　▲9,786千円<br>・収支率　62.3%<br>【取組目標年：令和9補助年度】<br>・経常収益　16,445千円（約263千円増加）<br>・経常費用　25,968千円（増減なし）<br>・経常収支　▲9,523千円<br>・収支率　63.3%（収支改善率1.0%） | 62.3% | 62.3% | 64.1% | |
| R9 | 12 | 苫小牧線① | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 上厚真 | 苫小牧駅前 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和6年補助年度】<br>・経常収益　13,251千円<br>・経常費用　27,838千円<br>・経常収支　▲14,587千円<br>・収支率　47.6%<br>【取組目標年：令和8補助年度】<br>・経常収益　13,532千円（約281千円増加）<br>・経常費用　27,838千円（増減なし）<br>・経常収支　▲14,306千円<br>・収支率　48.6%（収支改善率1.0%） | 利用促進<br>各市町発行の広報誌面を利用した利用促進に関するPRを継続実施<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクと時刻表と路線図の掲載を継続実施<br>・３月に時刻表の新聞折り込みを実施<br>・町内の公共交通総合時刻表(時刻表・路線図・利用ガイド)の全戸配布を年１回継続実施(取組主体:厚真町・安平町)<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動の取組については継続実施 | 【令和7年9月末時点】<br>・経常収益　13,566千円<br>・経常費用　28,972千円<br>・経常収支　▲15,406千円<br>・収支率　46.8% | 令和7年度の事業決算の処理が終わっていないため、令和6年9月末時点の実績値を使用。 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和7年補助年度】<br>・経常収益　13,566千円<br>・経常費用　28,972千円<br>・経常収支　▲15,406千円<br>・収支率　46.8%<br>【取組目標年：令和9補助年度】<br>・経常収益　13,863千円（約297千円増加）<br>・経常費用　28,972千円（増減なし）<br>・経常収支　▲15,109千円<br>・収支率　47.8%（収支改善率1.0%） | 46.8% | 46.8% | 47.8% | |
| R9 | 13 | 苫小牧線② | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 緑小 | 苫小牧駅前 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和6年補助年度】<br>・経常収益　13,593千円<br>・経常費用　24,432千円<br>・経常収支　▲10,839千円<br>・収支率　55.6%<br>【取組目標年：令和8補助年度】<br>・経常収益　13,842千円（約249千円増加）<br>・経常費用　24,432千円（増減なし）<br>・経常収支　▲8,695千円<br>・収支率　56.6%（収支改善率1.0%） | 利用促進<br>各市町発行の広報誌面を利用した利用促進に関するPRを継続実施<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクと時刻表と路線図の掲載を継続実施<br>・３月に時刻表の新聞折り込みを実施<br>・町内の公共交通総合時刻表(時刻表・路線図・利用ガイド)の全戸配布を年１回継続実施(取組主体:厚真町・安平町)<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動の取組については継続実施 | 【令和7年9月末時点】<br>・経常収益　13,470千円<br>・経常費用　25,471千円<br>・経常収支　▲12,001千円<br>・収支率　52.8% | 令和7年度の事業決算の処理が終わっていないため、令和6年9月末時点の実績値を使用。 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和7年補助年度】<br>・経常収益　13,470千円<br>・経常費用　25,471千円<br>・経常収支　▲12,001千円<br>・収支率　52.8%<br>【取組目標年：令和9補助年度】<br>・経常収益　13,719千円（約249千円増加）<br>・経常費用　25,471千円（増減なし）<br>・経常収支　▲11,752千円<br>・収支率　53.8%（収支改善率1.0%） | 52.8% | 52.8% | 53.8% | |
| R9 | 14 | 苫小牧線③ | 東胆振広域市町村 | 苫小牧市 | 厚真 | 日軽金 | 苫小牧駅前 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和6年補助年度】<br>・経常収益　13,612千円<br>・経常費用　23,275千円<br>・経常収支　▲9,663千円<br>・収支率　58.4%<br>【取組目標年：令和8補助年度】<br>・経常収益　13,845千円（約233千円増加）<br>・経常費用　23,275千円（増減なし）<br>・経常収支　▲9,430千円<br>・収支率　59.4%（収支改善率1.0%） | 利用促進<br>各市町発行の広報誌面を利用した利用促進に関するPRを継続実施<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクと時刻表と路線図の掲載を継続実施<br>・３月に時刻表の新聞折り込みを実施<br>・町内の公共交通総合時刻表(時刻表・路線図・利用ガイド)の全戸配布を年１回継続実施(取組主体:厚真町・安平町)<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動の取組については継続実施 | 【令和7年9月末時点】<br>・経常収益　13,610千円<br>・経常費用　24,243千円<br>・経常収支　▲10,633千円<br>・収支率　56.1% | 令和7年度の事業決算の処理が終わっていないため、令和6年9月末時点の実績値を使用。 | （利用促進）<br>・各市町村発行の広報誌を活用した利用促進に関するPRを実施(沿線市町：年数回実施)<br>・各市町HPとあつまバスHPの相互リンクは路線図・時刻表の掲載を継続実施<br>・あつまバス及び各市町、東胆振定住自立圏が行う運行情報の提供や啓発・周知活動等の取組については継続実施<br>・市町開催の各種イベントに於ける時刻表の掲載の継続実施<br>【厚真町】<br>・地域コミュニティバスの再編を実施、増便及び効率化を図り、路線バスとの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・乗合ハイヤーサービスの運行により、路線バスとの接続の円滑化を図り利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・厚真町公共交ガイドブックの発行(年１回)。<br>【安平町】<br>・地域コミュニティバスと路線バスとの併用回数券により、路線バスの利用促進に繋げる取組を継続実施。<br>・安平町総合時刻表の発行(年１回)<br>【あつまバス】<br>・全路線キャッシュレスサービスの継続実施。 | （利用促進）<br>利用促進の取組を行い、利用者の増加を見込む。<br>【基準年：令和7年補助年度】<br>・経常収益　13,610千円<br>・経常費用　24,243千円<br>・経常収支　▲10,633千円<br>・収支率　56.1%<br>【取組目標年：令和9補助年度】<br>・経常収益　13,843千円（約233千円増加）<br>・経常費用　24,243千円（増減なし）<br>・経常収支　▲10,400千円<br>・収支率　57.1%（収支改善率1.0%） | 56.1% | 56.1% | 57.1% | |